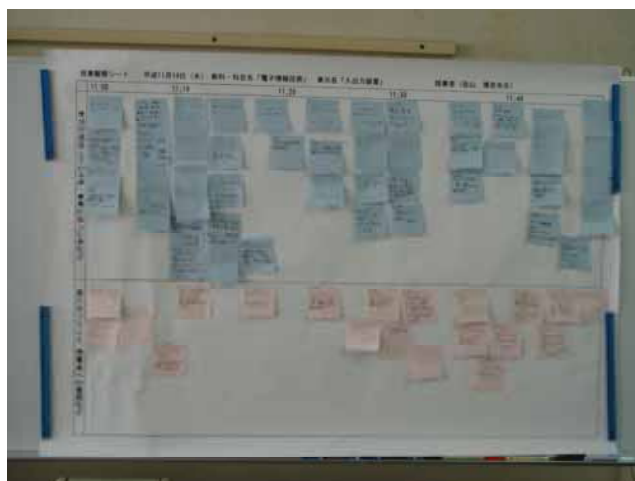
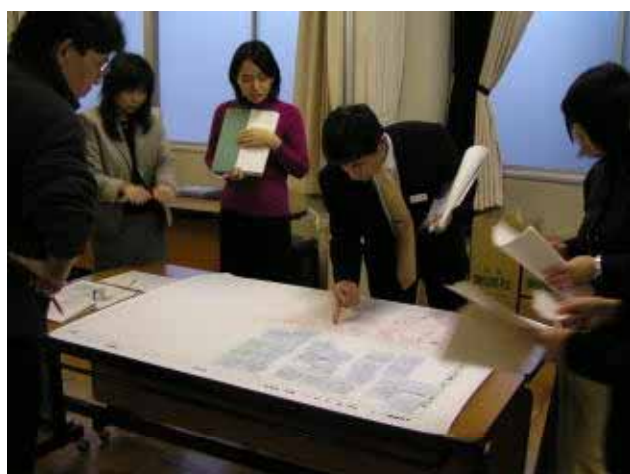


授業評価と授業研究会に関する参考資料(高等学校)

― 一校内研修を通じた授業改善を目指して ―



栃木県総合教育センター
平成20年3月

は じ め に

これまで、高等学校では、生徒の学力向上のために、授業の工夫改善はもとより、補習、課外授業、課題研究など、様々な取組を進めてきました。進路指導における個別の指導は、まさに個に応じた指導そのものであります。これらの多くは、生徒を対象として、基礎学力の定着を図ったり、学習の習慣付けや学習意欲の喚起を図ったりして、学力を向上させようという取組でした。先生方の労を惜しまぬ献身的な努力によって、学校教育は支えられてきたと言っても過言ではありません。

また、近年では、ほとんどの学校でシラバスが作成されるようになり、学校評価の一環としての授業評価も多く的高等学校で行われています。これらの取組は、教師が自身の指導を改めて振り返ったり見直したりすることができる点で、教師の授業力の向上を図る取組でもあります。

言うまでもなく、学校の教育活動の柱は授業であり、教師には授業力向上へのたゆまぬ努力が求められています。教師の授業力は、個人的な資質や研鑽に支えられた職人的な側面もありますが、これからは、授業評価や授業研究等を通して、組織的に、協働的に、その向上を図ることも大切です。近年では、ワークショップ型授業研究会を通して授業改善を図る取組が、全国的に注目を集めています。

授業評価には、「生徒による授業評価」、「教員相互による授業評価」、「保護者、地域住民、学校評議員による授業評価」等がありますが、本冊子では、「生徒による授業評価」、授業研究会を通じた「同僚教師による授業評価」に関する実践を紹介します。また、一人一人の教師が自らの授業を振り返り、授業を改善していく中で、授業力の向上を図っている事例や、授業評価を実施する際のポイントを紹介します。各学校においては、よりよい授業を創造して生徒の学力を向上させるために、そして、一層信頼される学校づくりを進めるために、本冊子を御活用ください。

終わりに、本冊子の作成にあたり、御助言をいただいた、国立教育政策研究所教育課程教育課程研究センター研究開発部 田代 直幸 教育課程調査官と、授業評価及び授業研究会の実践研究に御協力をいただいた調査研究協力校の方々に深く感謝申し上げます。

平成20年3月

栃木県総合教育センター所長

五味田 謙一

目 次

調査研究の概要	1
第1章 授業評価に期待される効果と課題	
－「授業評価に関するアンケート」から－	2
1 調査及び調査結果の概要	2
2 授業評価に期待される効果と課題のまとめ	5
第2章 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会	6
1 ワークショップ型授業研究会Q & A	6
2 研究授業における「授業観察」の方法	8
3 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会の進め方	9
4 授業研究会の性格を左右する付箋の分類の仕方	12
5 ワークショップ型授業研究会の参加者の声	14
第3章 授業評価を生かした授業の改善とワークショップ型授業研究会の実践	15
1 グループ活動による学び合いを目指した授業改善（事例1）	15
2 生徒と同僚教師による授業評価を生かした授業改善（事例2）	19
3 同僚教師による授業評価を生かした授業改善（事例3）	22
4 授業評価を生かした学び合う授業づくり（事例4）	25
第4章 組織的に学力向上に取り組むための校内研修の取組	
－本資料を活用して実践事例に学ぶ－	28
1 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ	
－第1回調査研究委員会にて－	28
2 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ	
－新任学習指導主任研修会（小・中学校）にて－	28
3 ワークショップ型研修を校内研修で ー本資料の活用例ー	30
第5章 授業評価の目的と目的別の授業評価シート	31
1 授業評価の目的	31
2 目的別の授業評価シート	32
引用文献・参考文献・参考URL	42

調査研究の概要

総合教育センターでは、「高等学校における授業評価に関する調査研究」として、生徒や教員による授業評価を生かした授業の工夫改善と、教員が学び合う校内研修の在り方について研究を進めてきました。

1 授業評価に関する意識調査の実施

この調査研究の一環として、授業力向上のための方策を探ることを目的として、平成19年の5月から6月にかけて、「授業評価に関するアンケート」を実施しました。

調査は、本研究の調査研究協力校4校の教員と、平成19年度の、教職5年目、教職10年目、教職20年目の各研修受講者を対象に実施し、合計362人から回答を得ました。

2 授業評価に関する調査研究委員会

4校の調査研究協力校からそれぞれ1名の参加者を招き、授業評価に関する取組の情報交換を行うとともに、本研究に関する共通理解を図りました。また、本調査研究委員会に国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部の田代直幸教育課程調査官を助言者として招き、「授業評価を実施するにあたって」と題した講話とワークショップを通して貴重な助言をいただきました。

3 授業評価を取り入れた授業の実践及び授業研究会

4校の調査研究協力校において、それぞれ2回ずつ、授業評価を取り入れた授業の実践及び授業研究会を実施しました。6月に実施した最初の授業評価、研究授業及び授業研究会で、様々な観点から診断的な評価を行い、改善の視点を明らかにしました。その後、重点項目に焦点を当てて課題を設定し、改善に取り組みました。9月以降に実施した授業評価、研究授業及び授業研究会においては、重点項目に関する評価を中心に検証を行いました。

○調査研究協力校（4校）

栃木県立宇都宮北高等学校
栃木県立小山高等学校
栃木県立佐野松陽高等学校
栃木県立黒磯南高等学校

○指導・助言者

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部

教育課程調査官 田代 直幸

○研究委員（5名）

栃木県総合教育センター	研究調査部	副主幹	小森 祥一
栃木県総合教育センター	研究調査部	副主幹	吉澤 正光
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	日下田 静夫
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	小川 浩昭
栃木県総合教育センター	研究調査部	指導主事	吉川 孝昭

第1章 授業評価に期待される効果と課題

－「授業評価に関するアンケート」から－

1 調査及び調査結果の概要

栃木県総合教育センターでは、授業力向上のための方策を探ることを目的として、平成の19年5月から6月にかけて、「授業評価に関するアンケート」を実施しました。

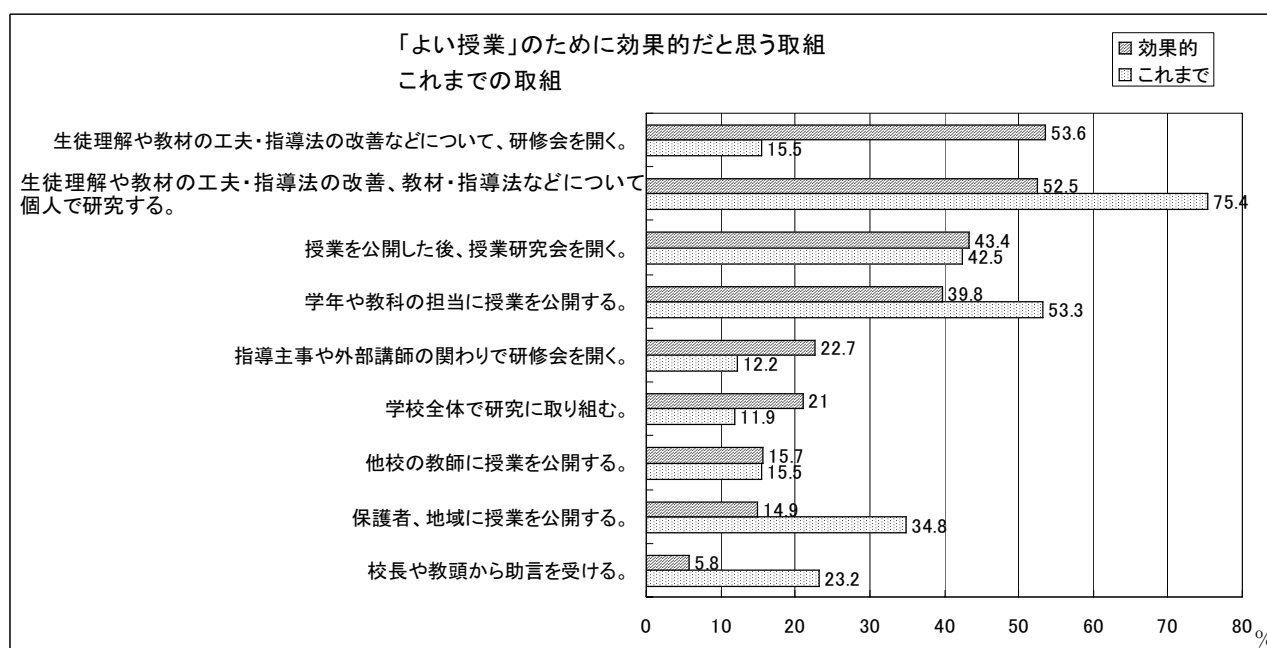
調査は、本研究の調査研究協力校4校の教員と、平成19年度の、教職5年目、教職10年目、教職20年目の各研修受講者を対象に実施し、合計362人から回答を得ました。

調査結果から、次のような事柄が明らかになりました。

「よい授業」のための効果的な取組は？

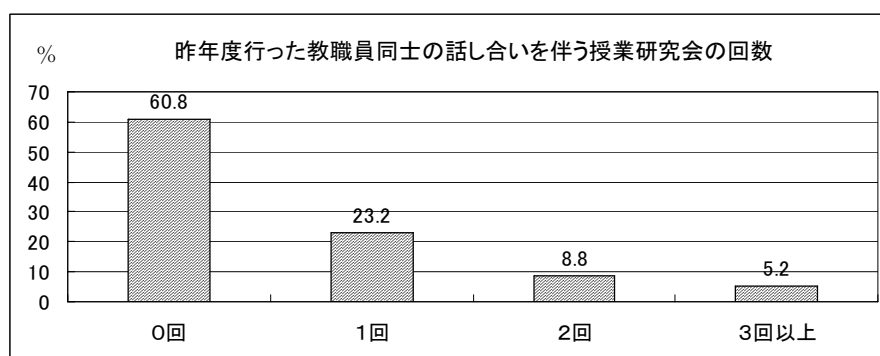
★「よい授業」のための効果的な取組は、研修会、授業研究会、授業公開。

⇒しかし、昨年度、約6割の教員は、教職員同士の話し合いを伴う授業研究会を行っていない。



「よい授業」のために効果的だと思う取組として、「生徒理解や教材の工夫・指導法の改善、教材・指導法などについて個人で研究する。」の回答が多くありました。また、このことは「これまでの取組」として、最も多い回答でした。

この個人的な取組以外では、「生徒理解や教材の工夫・指導法の改善などについて、研修会を開く。」「授業を公開した後、授業研究会を開く。」「学年や教科の担当に授業を公開する。」の回答が上位にあり、他の教員との関わりにおける取組が、「よい授業」のために効果的であると考えていることが明らかになりました。



しかしながら、「教職員同士の話し合いを伴う授業研究会」を、約6割の教員が昨年度は行っていません。

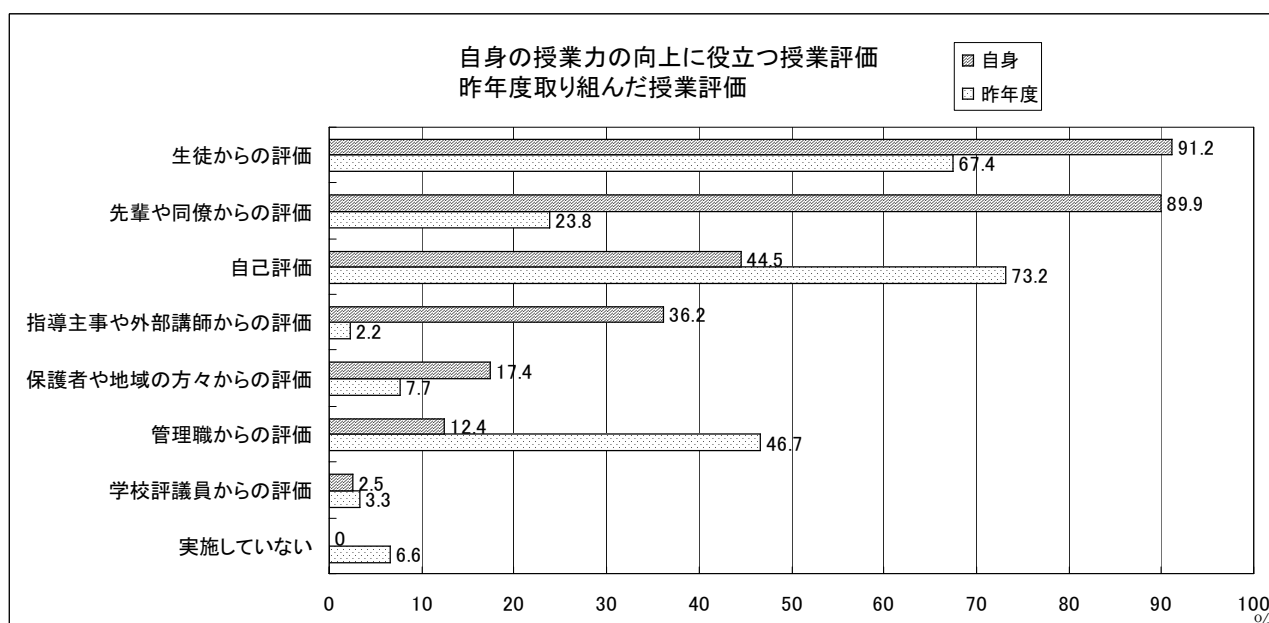
平成18年度に、小中学校の教員を対象に行った同様の調査における、中学校での「授業研究会」の実施状況は、0回が約3割、1回が約5割でした。「よい授業」のために「授業研究」が効果的であると認識しながらも、それが必ずしも活発に行われていない状況は、小中学校の調査でも明らかになりましたが、高等学校においては、更にその傾向が顕著でした。

誰からの授業評価が授業力の向上に役立つか？

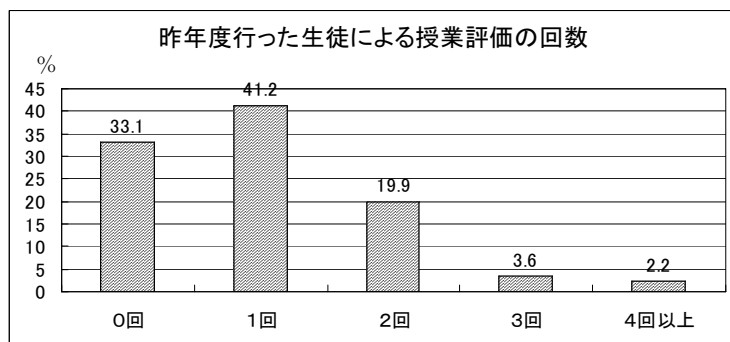
★授業力の向上に役立つ授業評価は「生徒からの評価」「先輩や同僚からの評価」

⇒しかし、「生徒からの授業評価」に比べ、「先輩や同僚からの授業評価」の実施率は低い。

⇒「生徒からの授業評価」の実施状況は約7割に達するが、実施回数は少ない。



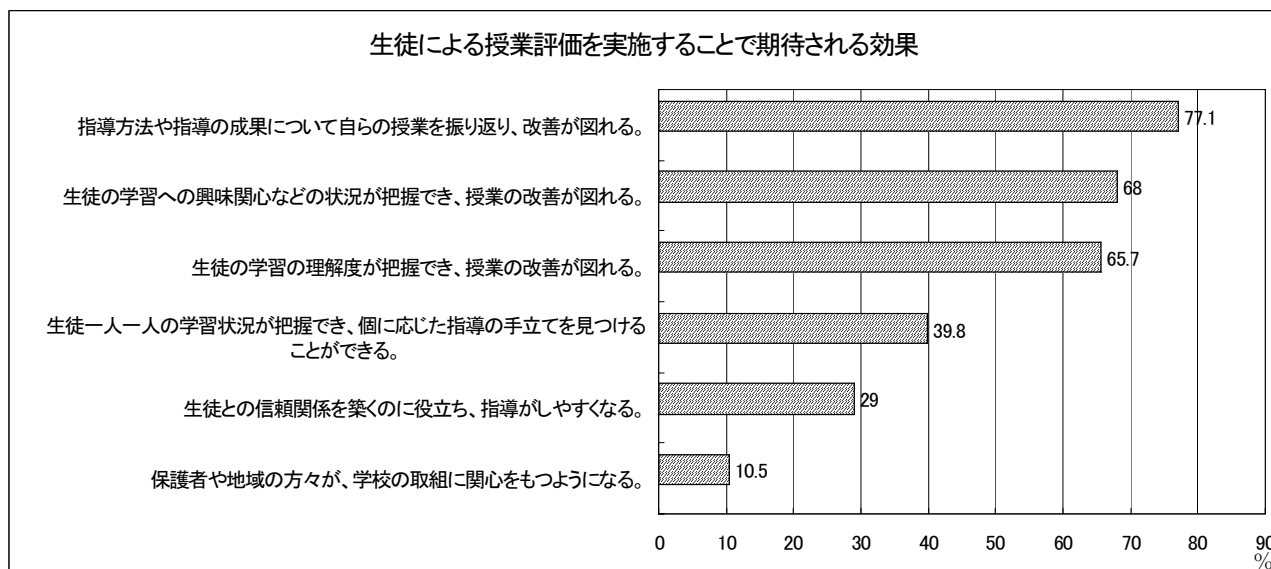
「自身の授業力の向上に役立つ授業評価」として、約9割の教員が、「生徒からの授業評価」と「先輩や同僚からの授業評価」と回答しています。しかし、昨年度の取組としては、「生徒からの授業評価」が約7割であるのに対し、「先輩や同僚からの授業評価」は約2割でしかありません。



また、昨年度の実施状況が約7割に達した「生徒からの授業評価」ですが、実施回数をみると、約3割が0回、約4割が1回、約2割が2回という状況でした。授業評価は、その内容や、実施後の生かし方が大切であり、実施の回数だけでその是非を判断できるものではありませんが、短いサイクルで授業の改善に生かすという視点から考えると、実施回数にも改善の余地があるようです。

生徒による授業評価によって期待される効果は？

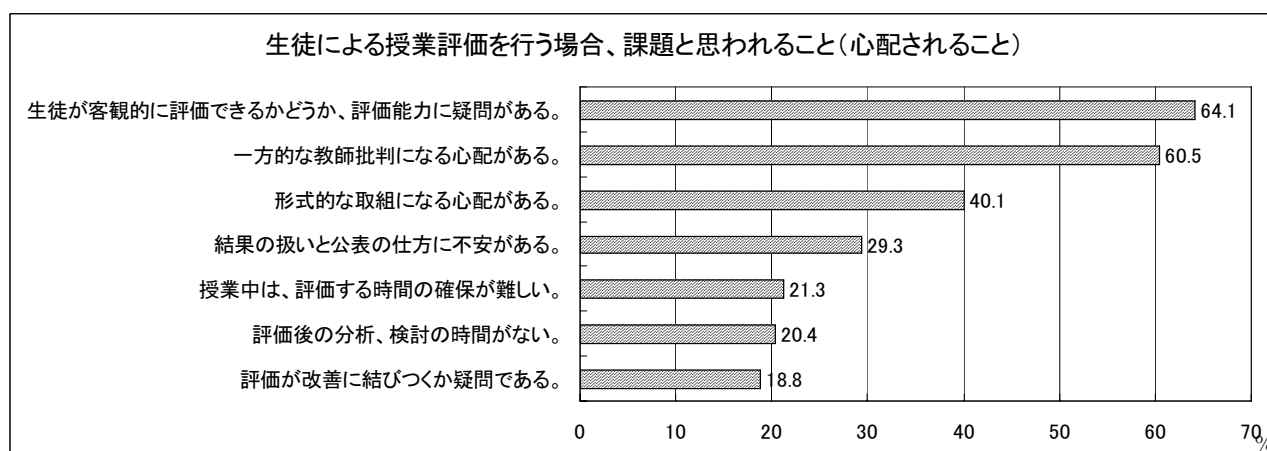
★「生徒による授業評価」によって授業の改善が図れることへの期待が大きい。



生徒による授業評価を実施することで期待される効果として、約8割の教員が、「指導方法や指導の成果について自らの授業を振り返り、改善が図れる。」と回答しています。また、約7割の教員が、「生徒の学習への興味関心などの状況が把握でき、授業の改善が図れる。」「生徒の学習の理解度が把握でき、授業の改善が図れる。」と回答しています。

生徒による授業評価の実施上の課題や懸念は？

★「生徒による授業評価」の実施上の課題や懸念としては、「生徒の評価能力への疑問」、「教師批判」、「形式的な取組」、「結果の扱い」などが挙げられている。



生徒による授業評価を行う場合の課題や懸念として、約6割の教員が、「生徒が客観的に評価できるかどうか、評価能力に疑問がある。」「一方的な教師批判になる心配がある。」を挙げています。次いで、約4割が「形式的な取組になる心配がある。」、約3割が「結果の扱いと公表の仕方に不安がある。」を挙げています。

2 授業評価に期待される効果と課題のまとめ

以上のように、「授業評価に関するアンケート」から、授業評価に期待される効果と課題が明らかになりました。

「よい授業」のための効果的な取組 ★授業公開 ★授業研究会 ★研修会	誰からの授業評価が授業改善に役立つか ★生徒からの授業評価 ★先輩や同僚からの授業評価
生徒による授業評価によって期待される効果 ★授業改善	授業評価を行う際の課題 ★生徒の客観的な評価能力 ★一方的な教師批判に対する危惧 ★取組の形骸化 ★結果の扱いと公表の仕方

これらの点を踏まえて、次ページ以降の章を以下のように展開します。。

第2章では、授業研究の新しい視点として、**授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会**について紹介します。

第3章では、4校の調査研究協力校における、**授業評価を生かした授業の改善とワークショップ型授業研究会の実践**の例を紹介します。

第4章では、組織的に学力向上に取り組むための**校内研修**について提案します。

第5章では、**目的別の授業評価シート**の例を紹介します。

第2章 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会

第1章で紹介した「授業評価に関するアンケート」の結果から、「よい授業」のための効果的な取組として期待されるのは、研修会、授業研究会、授業公開などである一方、授業研究会はあまり活発に行われていないことが明らかになりました。

そこで、総合教育センターでの研修を受講された先生方から、これまで経験した授業研究会についての印象を伺ったところ、次のような回答がありました。

- 授業者の反省の弁の後、参観者が一人ずつ感想や意見を述べていく形態が多く、形式的になりがちである。
- 参観者からの指摘が、時に指導案作成時に検討済みのことであっても、授業者に発言の機会がないと、「御指摘ごもっとも」と黙って聞いているしかなかった。
- 終わるとほっとするが、またやりたいとは思えなかった。
- 一人一人が教科の専門家だから、意見を述べるのは憚られる。
- 他の先生の授業は参考になるので見たいが、自分の授業は見せたくなかった。
- 研究授業や授業研究会は数年に一度のイベントで、気が重いものだった。

そこで、これらの問題点の多くを改善する手法として、よりよい授業づくりや教員同士の協働性を高めることができ、学校の活性化まで期待できる手法として全国的に注目を集めている、「ワークショップ型授業研究会」を紹介します。

1 ワークショップ型授業研究会Q & A

ここでは、授業リフレクションの手法を取り入れたワークショップ型授業研究会について、Q & A形式で紹介します。

Q 1 「授業リフレクション」とは何ですか？

A 1 授業者が、他者との対話を通して自分の授業を振り返る手法のことです。

Q 2 「ワークショップ」(workshop)とは何ですか？

A 2 本来は「作業場」や「工房」を意味する語です。ここでは「体験型の講座」を指します。

Q 3 どのように授業を観察するのですか？

A 3 参観者は生徒の顔の見える位置に立ち、生徒の表情や動き、思考する様子、つぶやきなどを観察し、気付いたことを2色の付箋に書き込んでいきます。
(詳細は ➡ 8 ページ)

Q 4 なぜ付箋を使うのですか？

A 4 記憶に頼って話し合うのではなく、生徒を観察して気付いた事実を付箋に記録しておくことで、事実に基づいて、短時間で活発に対話することができるからです。
(詳細は ➡ 8 ページ、10～14 ページ)

Q 5 参観者が心掛けることはありますか？

A 5 授業者の持ち味を尊重し、参考になる点を見出して、そこから学ぼうとする姿勢が大切です。

(詳細は ➡ 9 ページ)

Q 6 どのように授業研究会を進めるのですか？

A 6 プロンプター（進行役）の進行に従って、付箋を模造紙に貼り出しながら、授業者への質疑を重ねていきます。

(詳細は ➡ 10～11ページ)

Q 7 プロンプター（進行役）は誰にでも務めることができますか？

A 7 授業者を共感的に理解するように心掛ければ、誰にでもできます。ただ、進行のコツがつかめるまでは、後述する進行の仕方（例）を参考にするとよいでしょう。慣れてくれば、より自然に進行できるようになります。

※総合教育センター研究調査部では、校内研修にプロンプター役の講師を派遣することも可能です。御要望の際は御相談ください。

(詳細は ➡ 9～11ページ)

Q 8 授業研究会に時間がかかり過ぎませんか？

A 8 参観者の数や、書かれた付箋の数にもよりますが、5～6人の参観者が書いた付箋をすべて話題として取り上げると、90分程度を要するでしょう。

しかし、話題を絞って協議すれば、45分程度でもできます。

(詳細は ➡ 12～14ページ)

Q 9 指導案を作成しなければなりませんか？

A 9 指導案を作成することで構想が練り上げられるので、作成した方がよいでしょうが、校内研修における研究授業では、授業のねらいや展開を簡単に示した略案でもよいでしょう。場合によっては指導案なしでもよいでしょうが、その場合でも、授業のねらいを授業前に参観者に伝えて、理解しておいてもらいましょう。

Q 10 なぜ、授業研究会をワークショップ型で実施したり、授業リフレクションの手法を取り入れたりすると良いのですか？

A 10 それらによって、次のような成果が期待できるからです。

○付箋に書いたことを出し合って協議するため、参観者全員に何度も発言の機会があり、授業研究会に全員の声 that 反映されます。

○色別の付箋を模造紙に貼り出したり、それをグルーピングしたりすることで、授業の良い点や改善点が構造的に明らかになります。

○対話を通して授業を振り返ることで、授業者にも参観者にも学びが生まれます。

(授業研究会の参観者の声 ➡ 14ページ)

2 研究授業における「授業観察」の方法

準備するもの

①付箋（75mm×75mm） 2色×各10～15枚×参加者分

*付箋は大きい方が、大きい文字で書きやすく、貼り出した際に見やすい。

②サインペン（中字または太字）×参加者分

*付箋を貼り出した際に、細字だと文字が読みにくい。
ようせんばさみ

③用箋挟（クリップボード）×参加者分

④模造紙 1枚

⑤セロハンテープ

授業前に参加者に配る。

授業研究の際に、机または黒板などに貼る。

（1）観察の対象…特定または不特定の生徒

（2）観察する内容…生徒の表情や動き、思考する様子、つぶやきなど

（3）観察する位置…教室の前や横（教室後方では観察しにくい。参観者用の椅子は不要。）

（4）記録方法

①ビデオカメラ *必要に応じて、授業場面を振り返る際に利用する。

②付箋を利用した授業観察

記録の例

青の付箋

（学びが成立している点、参考になる点）

2:13

先生が具体例を示したところ、佐藤君は表情が明るくなって、熱心にワークシートに取り組み始めた。

ピンクの付箋

（気になったこと、授業者に聞きたいこと）

2:35

鈴木さんの発言の直後、先生が「他に？」と皆に問いかけたのはなぜ？

その他の記入例

- ・生徒の表情が明るくなった。
- ・話し合いが活発になった。
- ・適切な助言で生徒の理解を助けた。
- ・高橋さんが懸命に考えている。

- ・発問しておきながら、先生がすぐに説明してしまったのはなぜ？
- ・木村君が〇〇とつぶやいていた。
- ・思考が停滞して、うつむいている。

留意点

*時間を記録する。

*授業を観ながら、気付いたことをその場で書く。

*大きめの字で簡潔に書く。

*1枚の付箋に一つの項目だけ書く。

*何枚でもたくさん書く。

*付箋は2色あれば何色でもよい。ただし、授業前に使い分けを観察者に伝えておく。

3 授業リフレクションの手法を用いたワークショップ型授業研究会の進め方

(1) 参観者が心がけること

①プロンプター（進行役）

- 参観者全員に対して発言を促します。
- 常に生徒のことを話題にします。
- プロンプターは、授業者が生徒の「学びの姿」を見取って考え、意思決定した過程を明らかにするように、授業者と参観者に質問しながら授業の流れを検証していきます。
- 話題を掘り下げたい場合は、繰り返し質問して検証します。
- 授業を通して授業者や参観者が学んだことや気になるところを、キーワードを用いて集約します。

②授業者

- プロンプター（進行役）や参観者からの質問に対し、指導内容を振り返って回答します。
- 話し合いの最後に、研究授業及び授業研究会を経て学んだこと、今後に生かしたいことなどを振り返って述べます。

③参観者

- 授業者の存在を批判せずに受け入れ、授業者の言葉に耳を傾けます。参観者の意識の中に、授業者に教えようとする意識があると、授業者は心を閉ざしてしまい、授業研究会が頓挫しかねません。
- 肯定的な発言によって授業者の内面を引き出すように心がけます。
- 授業者の言葉にうなずき、あいづちをうち、授業者の言わんとすることを要約したり、授業者の思いを汲んで言葉で表したりします。
- 話し合いの最後に、参観者自身が、授業の観察や討議に参加して学んだこと、気付いたこと、自分の授業に生かしたいことなどを述べます。
- 授業者が見取れなかった生徒の様子（真剣に取り組んでいた姿、リーダーシップを発揮していた姿など）を授業者に伝えます。

【授業研究のポイント】

- ★授業を観察した先生が、授業者の指導技術や教材観だけを話題にしていると、授業者個人の評価になりがちです。参加者全員が授業から学ぶためには、そこから一歩踏み出して、授業者の指導で生徒がどう変わったかということと一緒に振り返り、自分の指導に生かすことが大切です。
- ★授業には唯一絶対の正解などありません。正解を一つに求めずに、具体的な事実を通して話し合い、多様な見方や考え方を共有し合うことが大切です。授業研究会を、授業者の成長を支援する場、参観者の成長を促進する場、教員同士が学び合い育ち合う場にすることが大切です。

(2) プロンプターの進行の仕方 (例)

①授業者の自己リフレクション (5分程度)

授業者に、「授業のねらい」、授業の中で起きた「迷い」や「不安」、「驚き」、「方針を変更したこととその理由」などを、自由に語ってもらいます。

- ◆〇〇先生、最初に、今日の「授業のねらい」と、授業に対する「思い」についてお話してください。
 - ◆授業を振り返って、授業の中で起きた先生自身の「迷い」や「不安」、「驚き」、などありましたか。
 - ◆当初構想していた授業の展開を、授業中に変更したことはありましたか。その場合は、変更した理由についてもお話してください。
 - ◆〇〇先生から、今日の授業に関して、参観された先生方に特に意見を聞いてみたいことはありませんか。
- ※聞いてみたいことがある場合は、それらを協議の中心にする。
- ◆〇〇先生から出されたことに関して、皆さんと一緒に考えていきましょう。

②グループリフレクション (45分～90分程度)

参観者が主に見てきた生徒が、どの場面で学んでいたのか、どの場面ですまづいていたのかを、参加者全員で話し合い、授業の振り返りをします。その際、授業者の意見を聞きながら、授業者の意図を共感的に理解しようと努めるようにします。授業を観察して学んだことを掘り下げて話し合う必要が生じるかも知れません。

最初の発言では、プロンプターが授業の良かった点を指摘し、どのような計画のものの指導であったか、どのような配慮のものの言葉かけであったかというようなことを授業者に尋ねます。

- ◆〇〇さんが、□□に熱心に取り組んでいたのは、先生の言葉かけが良かったからでしょうね。あの場面で、先生は何を思って、あの言葉かけをしたのですか。
- (授業者) それは、……
- ◆それでは、授業を観察した先生方から、授業中に気付いたことを中心に話し合ってください、協議を深めていきましょう。
 - ◆最初に、授業を観察して参考になったことや生徒の様子について、ぜひ授業者の〇〇先生にお伝えしたいことなどがありましたら、付箋を貼りながらお話してください。時系列に出して行きますので、導入の部分について何かありましたら、どなたかお話してください。
- ※出ないようだったら、指名して発表してもらおう。
- ※導入の部分で特に気付いた事や授業者に伝えたいことなどがなかったら、その他の展開の部分でもいいので発表してもらおう。
- ◆〇〇先生から……という気付きについてお話がありましたが、同じように見取った先生はいらっしゃいませんか。

※同じように見取った先生の一人一人に感想や意見を述べてもらう。

◆では次に、気になったことやぜひ授業者に聞いてみたいことがありましたら、付箋を貼って、授業者に質問してください。

※これもできるだけ、時系列にそって出してもらう。

※出ないようにしたら、指名して発表してもらう。

◆同じような疑問や質問をおもちの方も付箋を貼ってください。

※付箋が集中する部分があったら、その理由を考える。授業者が応えた内容について、さらに聞いてみたいことが出てきたら、そこをさらに掘り下げる。ただし、問いたですのではないことに留意する。

※授業者自身の「迷い」や「不安」、「驚き」について、それらの理由を再度聞いてもよい。

※授業者から参観者の意見を聞きたいということがあったら、参観者に話してもらう。

◎展開、まとめの順に進めていき、付箋が出し尽くされたら、最後の振り返りを行う。

◆〇〇先生、本日の研究授業と授業研究で学んだことや、今後の授業に生かしたいことをお話してください。

◆最後に、参観者の先生方も、本日の研究授業と授業研究会で学んだことや、今後の授業に生かしたいことをお話してください。

※授業者にとって役立つ授業研究会にすることが大切なので、締めくくりにして「振り返りカード」などに感想を書いてもらい、授業者に渡してもよい。

*ここでは、時系列に従って付箋を出しながら話し合う場合の例を示しました。別のパターンで話し合う場合は、これを参考にしてアレンジしてください。

振り返りカードの例

() 先生へ 記入者 ()
研究授業と授業研究で学んだことや、今後の授業に生かしたいこと

4 授業研究会の性格を左右する付箋の分類の仕方

付箋を使用するメリット

付箋を使った授業研究会では、記憶に頼って話し合う従来の授業研究会よりも、生徒を観察して気付いた事実に基づいて、短時間でも活発に対話することができます。

また、記入済みの付箋を共通のテーマごとに仲間分けしたり、付箋同士の関係をとらえたりする作業ができるため、参観者が授業を見る視点を広めたり深めたりすることが期待できます。

(1) 教師の指導と生徒の反応を分析しやすい「時系列のワークシート」

参観者が研究授業の中で記録した付箋を、授業の展開の流れに沿ってそのまま貼り出ししながら、参加者全員で授業を振り返る方法です。このように時間軸で整理してみると、教師の発問や指導などと、生徒の学習活動との関係が見えてきて、効果的に協議が展開されることが期待できます。

〇月〇日 () 「〇〇〇〇」単元・題材名「〇〇〇〇〇〇〇〇」〇年〇組 授業者 ()									
	(1:40)	(1:50)	(2:00)	(2:10)	(2:20)				
学びが成立している点・参考になる点	1:41 前時の振り返りを本時の学習につなげている。	1:44 4人グループで相互評価せよとの指示に興味を示す。	1:50 皆真剣に指摘事項を考えている。	2:00 N君がH君に助言をしている。	2:02 GさんがO君に表現の意図を確かめている。	2:10 班員の相互評価を皆真剣に読んでいる。	2:15 相互評価を基にした推敲作業に皆真剣に取り組む。	2:21 U君がH君に直した文を見せて助言を求めている。	
	1:41 Wさん意見文の書き方のポイントを押さえている。	1:44 よい点と改善点を10か所ずつ指摘する手法に興味。	1:52 机間指導で助言を受けたA君が鉛筆を走らせ始める。	2:00 Yさん「この表現うまい」と言った。	2:02 O君がGさんに表現の意図を説明している。	2:12 I君「なるほどそう書けばよいのか」と気付く。	2:17 Kさんが資料で意見文の根拠となるデータを確認。	2:27 U君「前よりもうまく書けた」と嬉しそう。	
	1:43 本時の目標が明確にされている。	1:46 早速机を寄せ合って、互いの意見文を読み始める。	1:53 「小さな気付きでもいい」との説明に全員納得。		2:05 皆意欲的に学習活動に取り組んでいる。	2:13 よい点の指摘を読んだF君満悦顔。	2:19 M君辞書で漢字を確認している。	2:28 自己評価で本時のねらいの達成状況を確認している。	
気になったこと・授業者への質問など	1:42 WさんとK君は答えられたが、他の生徒はどうか？	1:44 4人グループにした意図は？	1:51 A君は指摘事項が思い浮かばないで考え込んでいる。	2:07 机間指導で出た質問について全員に説明しないのか？		2:18 M君「どう直したらいいかわからない」とつぶやく。	2:25 相互評価を推敲に生かし切れない生徒への指導は？		
		1:47 班編成の際に構成員について何か配慮したか？	1:51 Eさん「10か所も分かんない」とつぶやく。			2:19 Jさん鉛筆を持ったまま思考停止状態。		2:29 自己評価をどうフィードバックするのか？	
		1:47 作品を見られることに抵抗のある生徒への配慮は？							

(2) 課題やテーマ別に分析しやすい「マトリックスのワークシート」

授業者の課題や研究テーマが明確にされている場合は、参観者にもその視点から授業を観察してもらい、授業研究では、課題や研究テーマにそって付箋を整理しながら振り返る方法もあります。このようにすることで、最初から話題を焦点化し、重点事項を優先的に協議することができます。

付箋を使った授業研究会に要する時間は、参観者や付箋の数にもよりますが、付箋のすべてについて話題にすると、授業時間の2倍程度を要することが少なくありません。しかし、この例のように協議の方向性を定めておけば、授業研究にかかる時間が十分に確保できない場合でも、優先順位に従って協議することが可能になります。

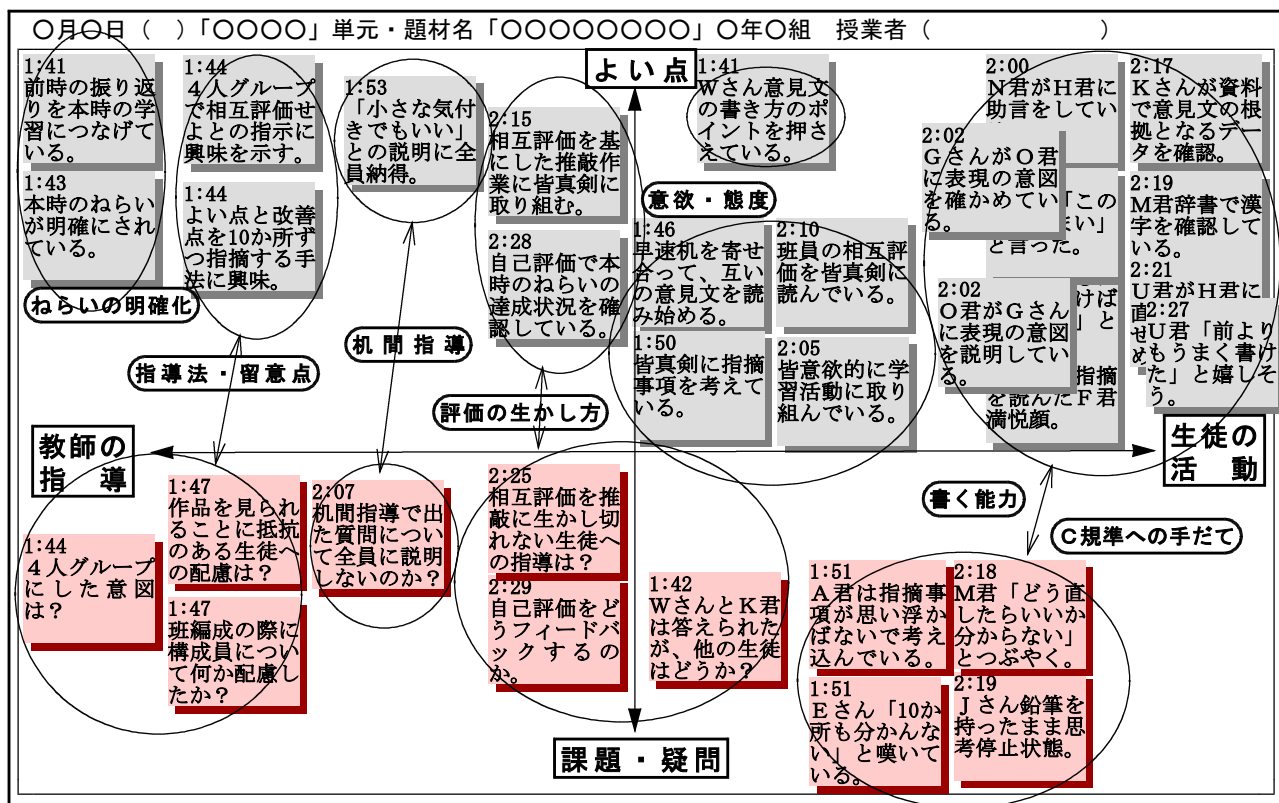
場合によっては、(1)のように、時系列で付箋を整理したものを、このような視点を加味してグループ分けするという方法もあります。

次の例は、授業者が課題として取り組んだ「学び合い」「主体的な学習」「書く能力」の育成」の3つのテーマに沿って、付箋を整理したものです。

〇月〇日 () 「〇〇〇〇」単元・題材名「〇〇〇〇〇〇〇〇」〇年〇組 授業者 ()				
	学び合い	主体的な学習	「書く能力」の育成	その他
学びが成立している点・参考になる点	2:00 N君がH君に助言をしている。 2:00 Yさん「この表現うまい」と言った。 2:02 GさんがO君に表現の意図を確かめている。 2:02 O君がGさんに表現の意図を説明している。	1:44 4人グループで相互評価せよとの指示に興味を示す。 1:50 皆真剣に指摘事項を考えている。 1:44 よい点と改善点を10か所ずつ指摘する手法に興味。 2:05 皆意欲的に学習活動に取り組んでいる。 1:46 早速机を寄せ合って、互いの意見文を読み始める。	1:41 前時の振り返りを本時の学習につなげている。 1:41 Wさん意見文の書き方のポイントを押さえている。 1:43 本時の目標が明確にされている。 1:52 机間指導で助言を受けたA君が鉛筆を走らせ始める。 1:53 「小さな気付きでもいい」との説明に全員納得。 2:12 I君「なるほどそう書けばよいのか」と気付く。 2:17 Kさんが資料で意見文の根拠となるデータを確認。 2:19 M君辞書で漢字を確認している。	2:27 U君「前よりもうまく書けた」と嬉しそう。 2:28 自己評価で本時のねらいの達成状況を確認している。
気になったこと・授業者への質問など	1:44 4人グループにした意図は？ 1:47 班編成の際に構成員について何か配慮したか？	1:47 作品を見られることに抵抗のある生徒への配慮は？	1:42 WさんとK君は答えられたが、他の生徒はどうか？ 2:18 M君「どう直したらいいかわからない」とつぶやく。 1:51 A君は指摘事項が思い浮かばないで考え込んでいる。 1:51 Eさん「10か所も分かんない」とつぶやく。 2:07 机間指導で出した質問について全員に説明しないのか？ 2:25 相互評価を推敲に生かし切れない生徒への指導は？	2:19 Jさん鉛筆を持ったまま思考停止状態。 2:29 自己評価をどうフィードバックするのか？

(3) 教科の指導法について理解を深める「縦軸・横軸のワークシート」

縦軸に「よい点」と「課題・疑問」、横軸に「教師の指導」と「生徒の活動」などと位置付け、付箋をグルーピングし、小見出しを付けて整理しながら振り返る方法です。その際、「本時の目標」や「授業者の課題」などを意識して整理していくと、目標の達成度や課題を解決する手だての検証ができます。



5 ワークショップ型授業研究会の参加者の声

ワークショップ型授業研究会に参加した先生方からは、次のような感想が寄せられました。

授業者 自分の気付かなかったことを見てもらえる。その後の指導の改善につながる。

参観者 生徒の表情を見ることや、つぶやきを聴くことの大切さを学んだ。

参観者 印象ではなく、事実の記録に基づいて場面を振り返って話し合える。

参観者 他教科の授業でも指導法として参考になる点が大いにあり、勉強になった。

授業者 授業の主役は生徒なので、生徒の様子や変化について記録するのは適切な手法である。

参観者 対話形式で意見交換するので、率直に話し合え、誤解も解消できる。多様な考え方が確認でき、参観者の授業改善にもつながる。

参観者 視点が明確になり、密度の濃い観察ができる。

参観者 生徒の様子は、教師の指導の鏡のようなものだから、生徒を見ると指導の効果が明確になる。

参観者 参加型の視点で授業を捉えることができる。

参観者 模造紙に貼った色別の付箋で、授業の良い点や改善点が構造的に明らかになる。

第3章 授業評価を生かした授業の改善とワークショップ型授業研究会の実践

この章では、4校の調査研究協力校において実践していただいた取組について紹介します。4つの事例は、それぞれ特定の教科の取り組みですが、どの教科にも応用できますので、授業改善や授業研究会の在り方に視点を当てて御覧ください。

1 グループ活動による学び合いを目指した授業改善（事例1）

（1）授業改善の構想

A教諭は、受動的な授業態度の生徒に対し、グループ活動によって生徒同士の学び合いを促し、自ら学び自ら考えようとする態度をはぐくむことをねらいとして、授業改善に取り組みました。

A教諭は、「化学Ⅰ」で、授業改善のために、生徒による授業評価を取り入れるとともに、次のねらいに基づいてグループ活動を取り入れました。

グループ活動のねらい

生徒は、教師の指示によって学習活動に取り組むが、受け身の姿勢が強い。そこで、グループ活動によって生徒同士の学び合いを促し、自ら学び自ら考えようとする態度を表わすきっかけとする。

6月の実践の成果と課題を踏まえて、グループ活動の成果と支援のポイントの確認を行い、10月の実践で、その検証を行いました。

6月

カードゲームの手法を用いたグループ活動

- （1）第1回の授業研究会（授業リフレクションの手法を用いた授業研究会）
- （2）授業改善の視点を明らかにするための、生徒による授業評価
- （3）教科の学習に関する意識調査

グループ活動の成果と支援のポイントの確認

- ・グループの中で、生徒同士が教え合う活動を促す。
- ・グループ活動の雰囲気が停滞しないように、途中で適切な指示を与える。

10月

カードゲームの手法を用いたグループ活動

- （1）第2回の授業研究会（授業リフレクションの手法を用いた授業研究会）
- （2）授業改善の成果を検証するための、生徒による授業評価

(2) 6月の実践の概要

①カードゲームの手法を用いたグループ活動



②授業研究会による授業改善の視点の探索

同僚の教師には授業の全般を見てもらい、授業改善の視点を探ってもらいました。

学びが成立して
いる点・参考に
なる点

気になったこと
・授業者への質
問など



【付箋の記入例】

10:04

教師がノートと見
てよいと指示した
ところ、確認しプ
リントに記入し始
めた。

10:05

左隣の生徒のプリ
ントをのぞき込ん
でいる。(自信な
さそうな表情)

授業研究会に参加した同僚教師の声

良かった点・成果

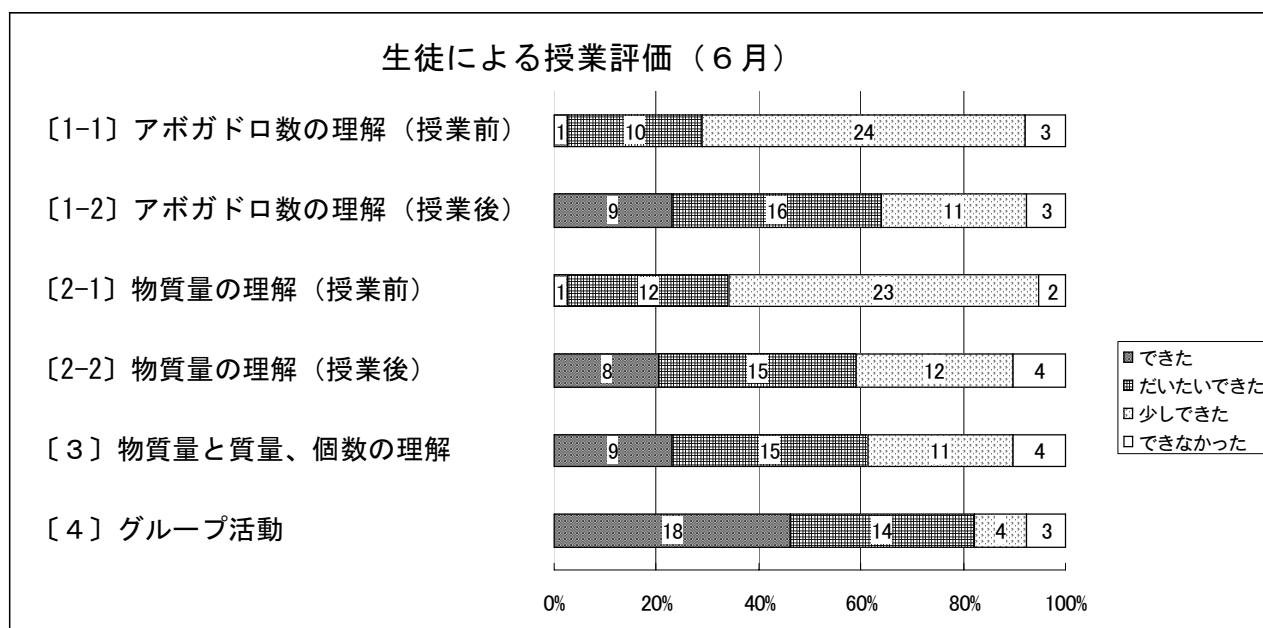
- 生徒が苦手とする分野において、ただ計算問題を解かせるだけでなく、グループ活動やゲーム的な要素を取り入れて、生徒全員に主体的に考えさせる指導ができていた。
- 理解できた生徒が理解が不十分な生徒を教える場面があり、学び合いのある授業だった。
- 公式を丸暗記させる指導よりも、時間がかかっても、悩んだり考えたりして「分かった！」と実感できる指導を工夫すると、学びの達成感がある。
- グループ活動でコミュニケーションをとりながら協力して考える生徒たちの姿を見て、プリント学習を繰り返していた自分の授業を反省した。自分の授業でも積極的に工夫したい。
- 生徒から理解できたときの感激の声が上がった。

反省点・課題

- カードの枚数の多さに困惑し、モチベーションの下がってしまったグループがあった。
- カードの操作やノートへの転記が終わらず、先生の話聞きもらしてしまう生徒がいた。
- 生徒の理解度を事前に把握していなければならない点が難しい。

③授業改善の視点を明らかにするための「生徒による授業評価」と「生活・意識調査」

6月の研究授業では、学習に関する意識やグループ活動に対する実感について、生徒による授業評価を行い、生徒の学習の傾向や授業改善の方向性を明らかにして、その後の授業改善に取り組みました。



生徒の学習の傾向

学校で例年実施している「生活・意識調査」からは、次のような生徒の実態が指摘できます。

- 授業にまじめに取り組もうとする生徒が多い。
- 学習内容の難しさを強く感じている生徒が多い。
- 家庭での学習習慣の確立が大きな課題であることを意識している生徒が多い。

授業改善の方向性

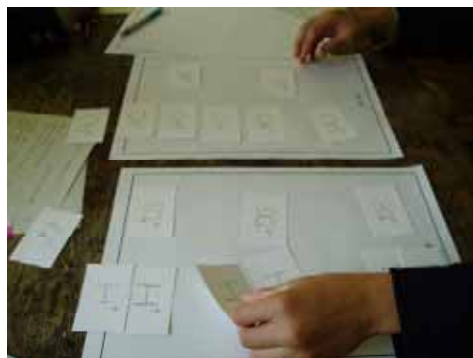
生徒による授業評価及び「生活・意識調査」を踏まえ、授業改善の方向性を決めました。

- ★家庭学習や定期考査に主体的に取り組ませるための、学習に関するガイダンスの改善。
- ★分からないことを先生や友人に聞くことがこれまで少なかったことから、活発なグループ活動は人間関係をつくり、学び合うきっかけになることが期待される。

（3）10月の実践の概要

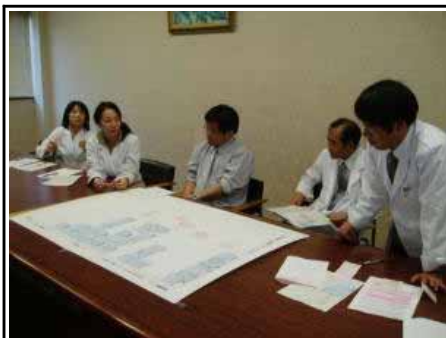
①カードゲームの手法を用いたグループ活動

A教諭は、6月以降重点的に取り組んできたグループ活動を、10月に実施した公開授業においても取り入れました。



②授業研究会における改善の成果の検証

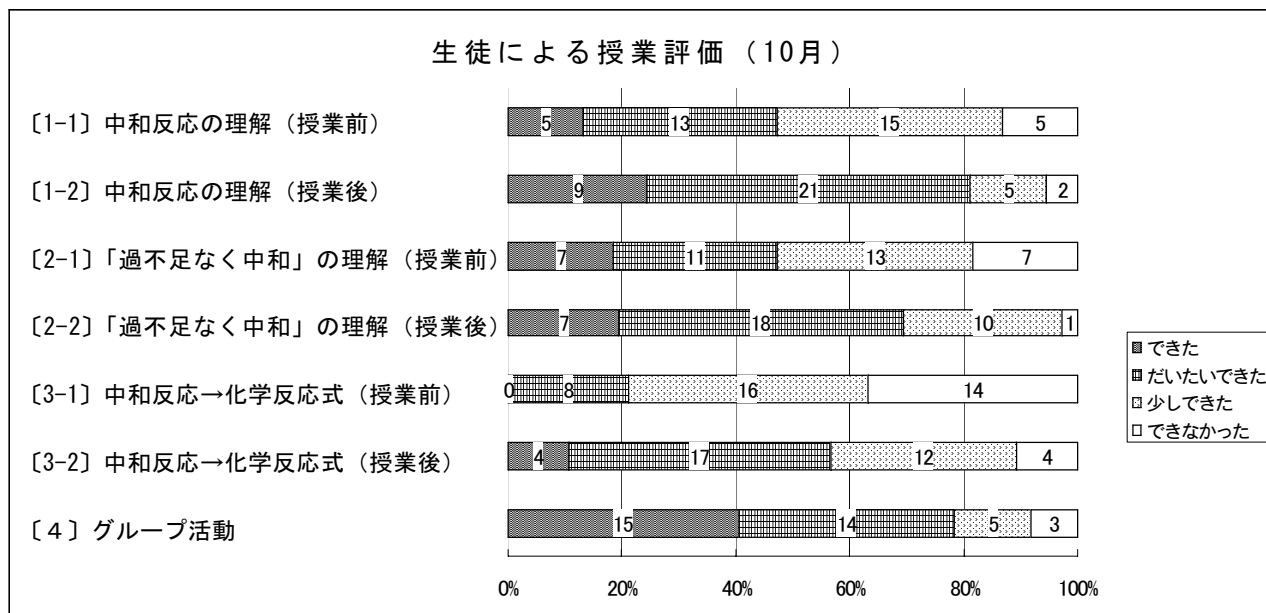
授業研究会で、同僚教師とともに改善の成果を検証しました。



- 10月の授業研究会では、同僚教師がプロンプター（進行役）を買って出ました。
- 授業リフレクションの手法を取り入れた授業研究会の体験も2度目ということもあり、活発な意見交換がなされました。
- 教師集団にもともとあった同僚性の、一層の高まりが感じられました。
- 研究授業の際に、グループ活動の効果について重点的に観察してもらったため、6月の授業研究会に比べて全体の付箋の数は少なくなりました。
- 焦点を絞った話し合いにより、短時間でも充実した授業研究会になりました。
- 下段（気になったこと）に比べて上段（学びが成立している点）の付箋が多いことから、グループ活動の成果が明らかに見てとれます。
- 後半のまとめの時間帯に関しては、振り返りの学習の取組を評価する指摘や、生徒の発表の時間の確保を課題と指摘がありました。

③授業改善の検証のための、生徒による授業評価

生徒による授業評価からは、グループ活動が生徒同士の学び合いを促し、授業の理解に手応えを感じた生徒が多かったことが分かりました。



ポイント

生徒による授業評価などによって診断的に実態を把握して、中期的な視点に立ちながら年度内に授業改善に取り組み、改善の成果も授業評価によって検証するという、まさに評価を改善に生かした実践事例です。

2 生徒と同僚教師による授業評価を生かした授業改善（事例2）

普段の授業において、教師は常に生徒の学習状況を評価しながら、臨機に改善を行っています。その評価や改善の手立ての妥当性を高めるために、授業者だけの判断ではなく、授業を観察した教師や授業を受けた生徒の意見を聞くという方法もあります。授業研究会における授業分析をより確かなものにするために、同僚教師による授業評価に加えて、生徒による授業評価を取り入れた授業研究会を行いました。

（1）授業評価に関する取組の現状と課題

B校では、学校評価の参考資料とするために、生徒による授業評価を毎年9月末に行っています。質問には、生徒自身の授業に臨む姿勢に関するものの他に、教師の指導に関する次の5つの質問があります。同校の学校評価委員会が集計・分析し、結果を生徒や保護者に公表します。また、教員に改善案を示すとともに、改善策を求めます。

授業評価の質問項目（教師に関する評価）

- ① 授業の始まりから終わりまで意欲的に取り組んでいるか。
- ② 授業の内容に対し、生徒の興味関心を引き出す工夫や努力をしているか。
- ③ 説明の仕方は分かりやすいか。
- ④ 授業で分からなかったところを先生に質問しやすいか。
- ⑤ 課題・宿題は、量・内容ともに適切か。

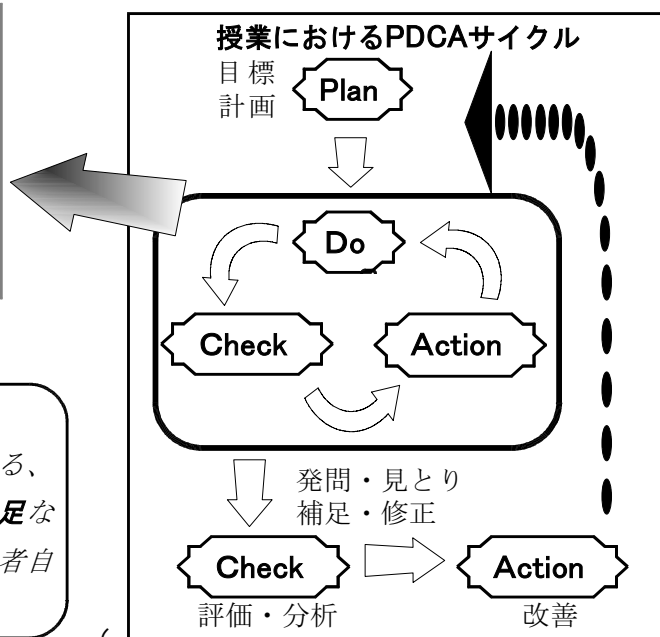
B校での取組では、生徒による授業評価は1年に1回だけの実施のため、ある授業時間や単元についての評価ではなく、個々の教師の授業に対する総括的な評価となっています。評価結果は概ね良好ですが、評価結果の分析の結果を踏まえて、教師からは意欲的な改善策が出されています。一方、同僚教師が参加する授業研究会は、総合教育センターの基本研修で指定される以外にはあまり行われていませんでした。

教師は生徒の学習状況を踏まえて指導計画を立てて授業に臨んでいます。その上で、実際の授業では、生徒が理解できていないような状況が生じた場合に、補足説明したり説明の仕方を変えたりするなど、臨機に指導の改善を行っています。



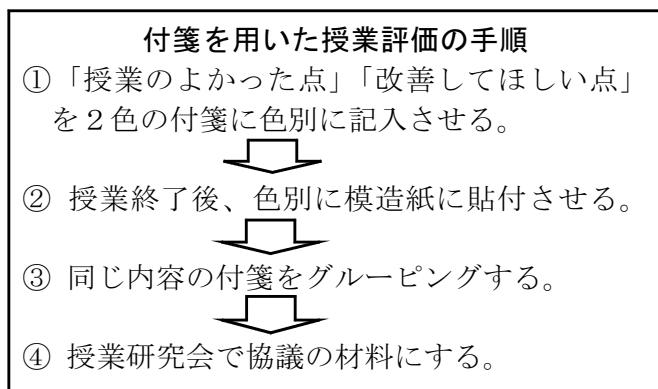
【B教諭の授業評価のメインテーマ】

授業中の生徒とのやり取りの中で行われる、**発問、見取り（反応・理解度）、説明の補足**などが適切であったかどうかを評価し、授業者自身及び授業観察者の授業改善に生かす！

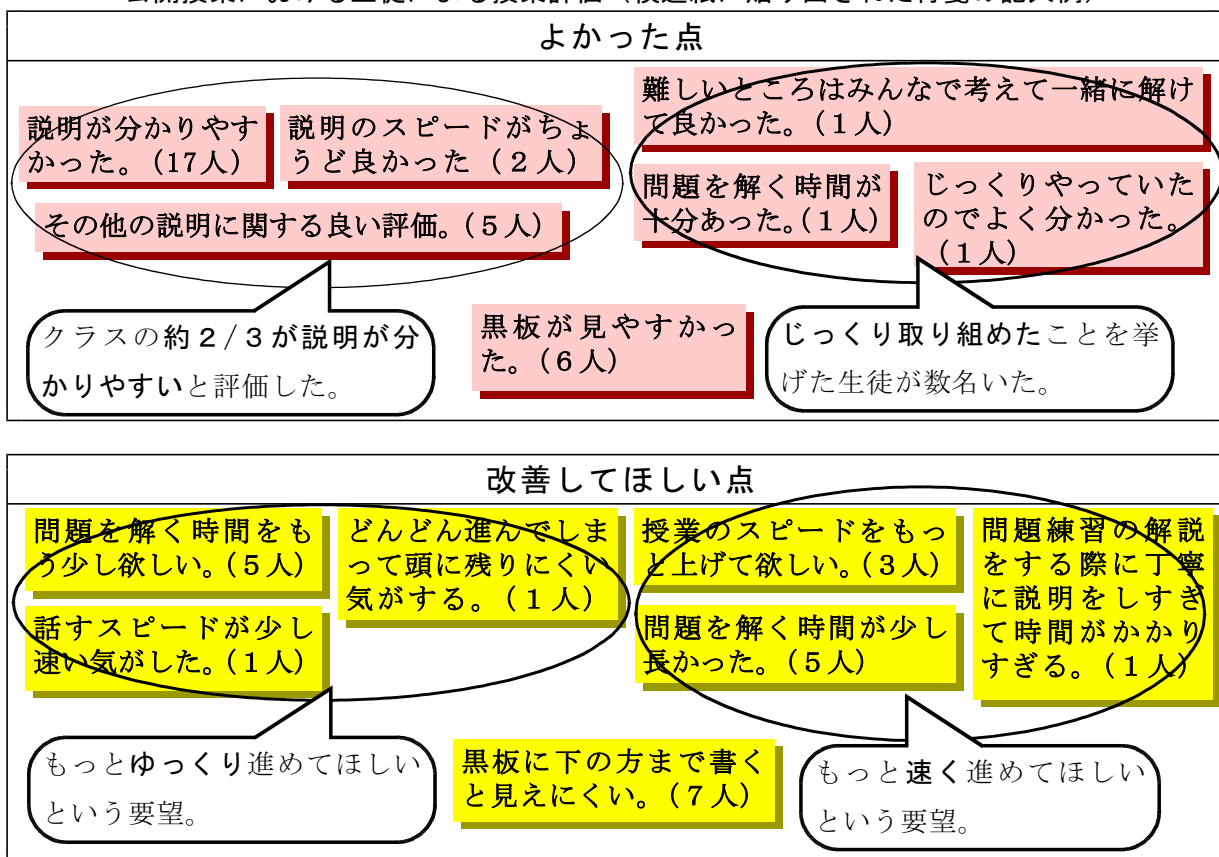


2) 生徒による授業評価を生かした授業改善

一般的に用いられている質問項目の多いアンケート方式の評価票を使って、研究授業の際に生徒による授業評価を行い、それを次時に行う授業研究会で検討の材料にしようとしても、集計に時間がかかります。そのため回答状況を概観したり、自由記述を拾い読みする程度で精一杯です。そこで、B教諭は、2色の付箋を用いて、「授業のよかった点」と「改善してほしい点」を生徒に書かせました。授業後、記載内容が同様の付箋をグルーピングすることで、評価の概要を視覚的にとらえることができ、迅速かつ適切に授業改善に生かすことができました。



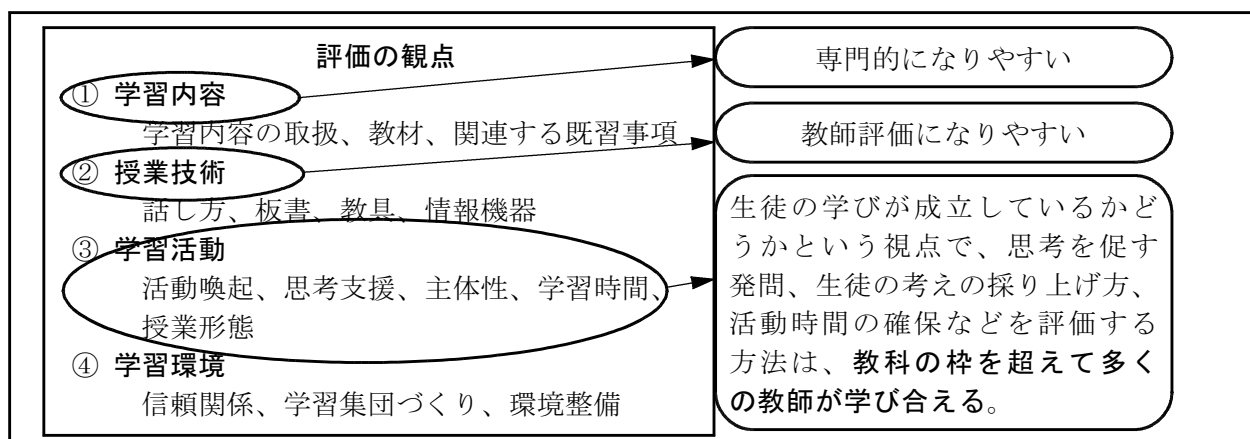
公開授業における生徒による授業評価（模造紙に貼り出された付箋の記入例）



グルーピングによって分かった特徴的なことは、多くの生徒が説明が分かりやすいと満足していながら、授業を「**もっとゆっくり進めてほしい**」という要望と、「**もっと速く進めてほしい**」という要望の、相反する要望に二分されていたことです。これは、「改善してほしい点」を個々の生徒に聞いたことで明らかになったことです。

(3) 全ての参加者に学びをもたらす授業分析の手法（「学習活動」の観点からの検討）

通常の授業評価では、いくつかの観点に基づいて評価を行っています。大別すると、「学習内容」、「授業技術」、「学習活動」、「学習環境」の四つの観点で評価を行うのが一般的です。教科の検討会では「学習内容」の観点が大変重要で、教材の扱い方をその指導法も含めて検討することが、教科の指導力を高めるのに有効です。しかし、教科の枠を超えて授業力向上に取り組むために、複数の教科の教師が参加する授業研究会においては、「学習活動」の観点からの検討の方が、教科の枠を超えた普遍的な指導法について学び合うことが期待できます。B校においても、同僚教師による授業評価の内容（付箋の記載内容）が、6月に比べて回を重ねた11月の研究授業の方に「学習活動」に関するものが多かった点で、他教科の教師にとっても学びがありました。



生徒が書いた付箋と教師が書いた付箋について話し合う、授業研究会の参加者

研究授業・授業研究会に参加した同僚教師の声

教師側の教え方を見るだけでなく、生徒の学びが成立しているかどうかを見るという視点は新鮮で良かった。自分でも生徒の学びが成立しているかどうかを常に意識しながら授業を行うように心掛けたいと思った。

付箋を用いた授業評価は良い試みだと思う。時間も記入するので、どの時間帯が良く、どの時間帯が悪かったのか一目で分かるのが良い。

他の先生の授業を見ることが、自分の授業の改善に役立つと思う。多くの機会に多くの先生方の研究授業を行った方が良い。

付箋を用いて授業の感想を書かせる方法は、生徒の反応を短時間で確認することができ、個々の生徒の様々な思いに気付くことができとても良い。

教師が記した付箋に見られる、学習活動など生徒の学びに関する評価の割合

6月

11月

33.3%

41.2%

ポイント

質問項目をいくつも並べた評価票を使うことだけが授業評価の方法ではありません。紙片や付箋に授業の感想や質問を書かせて生徒の声を聞くだけでも、授業改善に生かすことができます。

3 同僚教師による授業評価を生かした授業改善（事例3）

同僚教師による授業評価から授業改善の課題を設定し、授業改善に取り組みました。さらに、取り組みの重点課題に沿って数か月後にも評価を受け、課題の成果を検証するとともに、新たな課題については、その後も継続的に改善に取り組んでいます。

（1）教職10年目研修における、C教諭の「課題研究」の取組

6月	公開授業A ＋授業評価 ＋授業研究会	Plan Do Check	生徒による授業評価 同僚教師による授業評価	課題の設定
6月～	授業実践	Action	課題解決に向けた取り組み	
11月	公開授業B ＋授業評価 ＋授業研究会	Plan Do Check	同僚教師による授業評価→課題解決の検証	
11月～	授業実践	Action	課題解決に向けた取り組み	

（2）6月の公開授業における同僚教師による授業評価

6月の公開授業における、同僚教師による診断的な授業評価によって、改善の視点が明らかになりました。

Check

（振り返りシートに貼り出された付箋の記入例）

	学びが成立している点、参考になる点	気になったこと、授業者に聞きたいこと
導入	範読を聞いて、多くの生徒が難語句の読みを教科書に書き込んでいる。	鉛筆を手に教科書を読む習慣が身に付いている。
展開	授業者の発問や具体例によって、内容を理解しようとしている。	生徒自身が語句を調べる場面がない。
まとめ	全ての生徒が、板書をよくノートに写している。	生徒が活動する場面が少ないのではないかと。指名されていない生徒の思考が止まっているのでは？
		思考の流れを整理する板書は？ 本時のねらいがどの程度達成されたか？

授業研究会では、授業者と参観者との間で次のような質疑が行われました。これを踏まえて、C教諭は授業改善の課題を設定しました。

生徒は鉛筆を手にして教科書を読む習慣がついているようですが、どんな指導をしていますか？

難語句は必ずチェックしながら読むようにさせています。

本時のねらいがどの程度達成されたと見取りましたか？

発問に答えた生徒はそれなりに評価できますが、それ以外の生徒がどの程度主体的に考えたかは判断しにくいですね。

Action

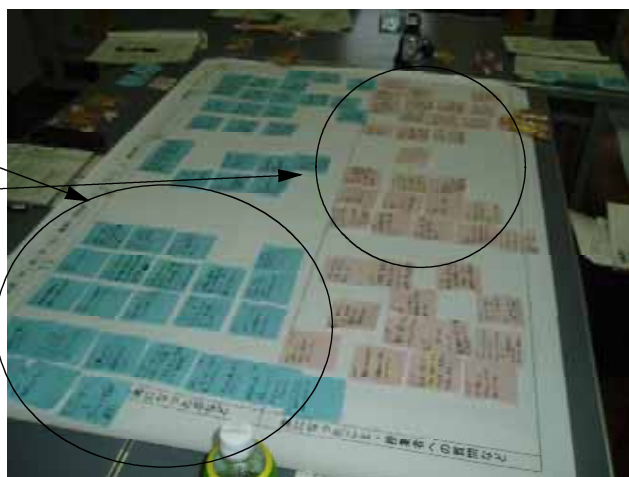
C教諭の設定した授業改善の課題

- ①板書の工夫
- ②思考を促す発問や学習活動の工夫
- ③ねらいの達成状況の評価の工夫

6月の授業研究会において、模造紙に貼り出された付箋

◇「導入」の時間帯での、生徒の学習活動は活発であった。

◇「展開」と「まとめ」の時間帯での、生徒の学習活動に課題が見出された。



C教諭の課題解決の取組（6月～）

- ①生徒の思考を整理する板書の工夫
- ②発問の質と内容の工夫
- ③ワークシートによる学習内容の振り返り

Plan

Do

（3）11月の公開授業における同僚教師による授業評価

11月の公開授業において、同僚教師には、主に課題解決の取組の①～③に視点を当てて、生徒の様子を見取ってもらいました。授業研究会では、次のようなことが話題になりました。

（振り返りシートに貼り出された付箋の記入例）

Check

	学びが成立している点、参考になる点	気になったこと、授業者に聞きたいこと
導入	授業者の説明をよく聞いて、ノートをとっている。	発問に対して、指名されていない生徒がどの程度考えていたと評価できるか。
展開	解説をよく聞いて理解しようとしている。 生徒の意見や授業者の説明が、板書によく整理されている。	指名の順番が固定されていて、指名されない生徒は思考していないように見える。 生徒は説明をよく聞いているが、授業者は生徒の思考する状況をどのように評価したか。
まとめ	ワークシートに熱心に取り組んでいる。 ワークシートの記入状況によって、学習事項の理解度が概ね評価できる。	ワークシートの解答を生徒に答えさせずに、授業者が説明したのはなぜか？

授業研究会では、授業者と参観者との間で右のような質疑が行われました。C教諭は、6月以降の授業改善の取組の成果や新たな課題を検証しました。

学習事項をワークシートにまとめさせたので、理解度が把握できましたね。

ワークシートの解答を先生が説明したのはなぜですか？

普段はノートにまとめさせていますが、今日は学習内容の定着度を確認するためのワークシートを用意しました。

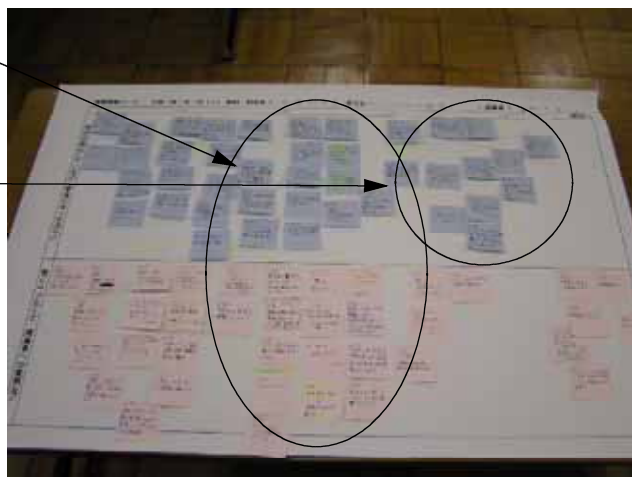


問いに対する解答はすべて教科書に書いてある内容でしたし、時間的な問題もありました。

11月の授業研究会において、模造紙に貼り出された付箋

◇参観者から、指名の仕方に対する指摘があったものの、発問の工夫によって生徒の発言の機会は増えた。

◇ワークシートを取り入れたことで、生徒が学習を振り返る場面ができた。また、授業後にワークシートの記入状況を確認することにより、本時のねらいの達成状況を判断して、次の指導に生かすことができる。



取組の成果

課題①～③の改善

新たな課題

課題④ 評価の工夫

課題⑤ 生徒の思考を
活性化させる発問の工夫

Action

C教諭は、この評価結果をさらなる改善に生かすべく、教科経営にPDCAサイクルを位置づけて、発問や評価の在り方について、引き続き指導の工夫に取り組んでいます。

ポイント

授業における教師の言動は、年月を経るにつれて習慣化し、固定したものになりがちです。中堅やベテランの教師にとって、授業スタイルや指導法は既に一定の型として身に付いていることが多いでしょう。しかし、だからこそ授業評価を活用して、改めて日頃の指導法について振り返り、指導の改善に生かしていくことが求められます。その中で授業スタイルの優れている点を確認し、改善すべき点を自覚することによって、授業の腕に一層磨きがかかるだけでなく、後進の授業の道しるべとなるでしょう。

4 授業評価を生かした学び合う授業づくり（事例4）

D教諭は、研究授業後に行った生徒及び同僚教師からの授業評価から、概ね良好な評価を得ましたが、課題として唯一指摘のあった「生徒同士が学び合う授業」づくりを改善の重点項目として掲げ、さらなる授業の充実を目指して取り組みました。

（1）学校全体での授業評価の取組

①試行での取組（平成15年度）

D教諭の勤務校では、授業の改善を図るために、平成15年度末に生徒による授業評価を試行的に実施しました。しかし、生徒に改善点を指摘させるような表記であったため、授業に対する一方的な要望が多く書かれ、教師からは授業評価に対する不安の声があがりました。

②授業評価票の改善（平成16年度）

平成15年度の授業評価の問題点を次のように分析しました。

- ①質問項目に授業者のマイナス面を問う内容が多かったこと。
- ②授業者に対する評価だけをさせたこと。

これらを踏まえて、次のように評価票を改善しました。

- ①質問項目に授業者のプラス面を問う内容を多く取り入れた。
- ②生徒自身に授業に対する取り組みを自己評価させた後、授業評価の質問に答えさせた。（※改善した評価票は、39ページに示したようなもの）

この結果、生徒が自らの授業への取組を振り返ったことで、改善につながる建設的な意見が増え、教師からの不安もほとんどなくなりました。現在では、評価結果を参考にして授業改善に役立てる教師が多くなりました。

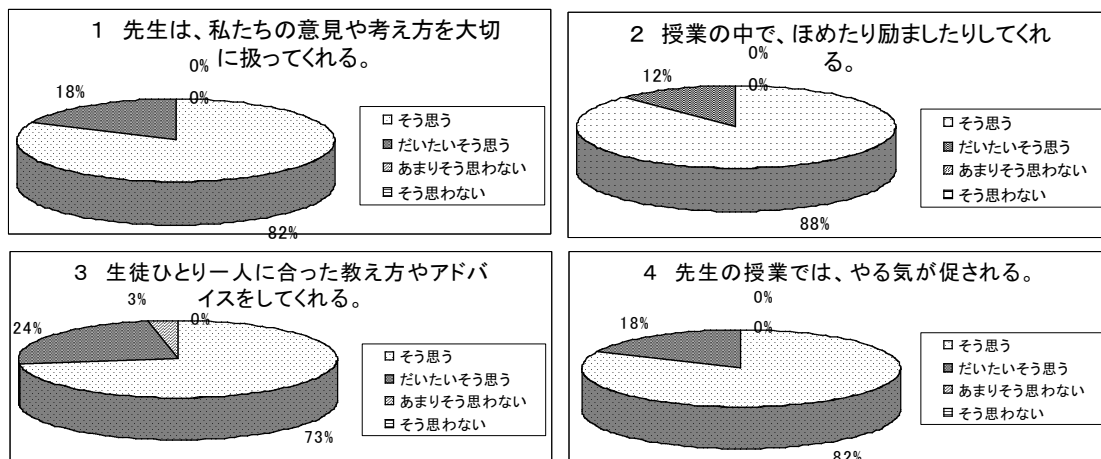
（2）D教諭の取組

D教諭は、これまでも生徒による授業評価の結果を踏まえ、前向きに授業改善に取り組んできました。しかし、本調査研究を機会に、授業力のさらなる向上を目指し、授業改善に取り組みました。

①課題の設定（6月の公開授業）

D教諭は、まず、普段どおりの授業を行った後に、生徒による授業評価を実施しました。これを基に、自身のこれまでの授業改善の取組の確認と、今年度における取組の課題を設定しました。

6月 生徒による授業評価の結果



上記のグラフから、D教諭の授業に対する生徒の評価は良好であることが読み取れます。また、同僚教師からも同様に高い評価が得られましたが、数名の同僚からは改善点として次のような指摘がありました。

- ①科目の特性上、教師の説明が多くなるのはやむを得ないが、**生徒に考えさせる場面**がもう少しあると良い。
- ②考えに行き詰っている生徒がいたので、**グループ学習**を取り入れて**生徒同士による話し合い**の場を設けると良い。

これらのことは、D教諭も以前から取り入れたいと考えていたことでした。D教諭は、これを良い機会と捉え、「生徒同士が学び合う授業」づくりを目指した授業改善に取り組みました。

②改善に向けた取組（11月の公開授業）

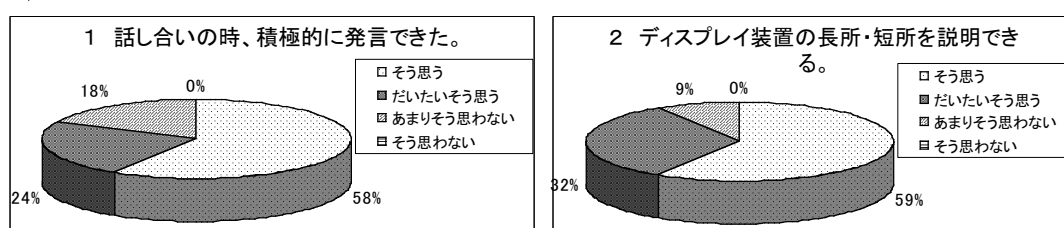
教材について口頭で説明するだけでなく、本時の教材である各種ディスプレイ装置の実物を提示したり、グループ活動を取り入れた話し合いをさせたりしました。

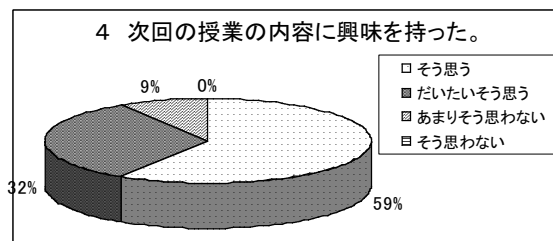
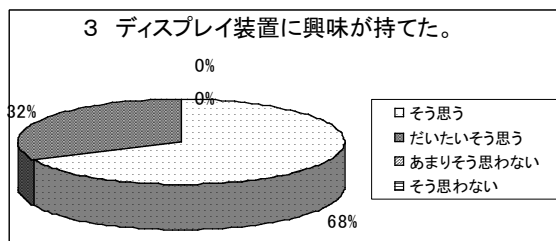


グループ学習での話し合いの様子

③公開授業における授業評価（11月）

11月 生徒による授業評価の結果





上記のグラフから、グループ活動などを取り入れた取組の成果がうかがえます。

11月の公開授業についてワークショップ型授業研究会を行い、同僚教師からも授業評価を受けたところ、生徒からの授業評価と同様の成果が、次のように指摘されました。

11月の公開授業における同僚教師による授業評価

(振り返りシートに張り出された付箋の記入例)「電子情報技術」(「出力装置」の単元)

	学びが成立している点、参考になる点	気になったこと、授業者に聞きたいこと
導入	前時の復習では、ほとんどの生徒がノートを見て答えている。	前時の学習内容の確認では、本時の学習内容との関連性に気付かせる発問を取り入れると良い。
展開	ほとんどの生徒が話し合いに参加しており、他の生徒の意見に耳を傾けている。	話し合いの時間が長い割に発表時間が短かく、まとめの一部しか発表できない生徒はやや不満そう。
まとめ	まとめの学習場面でも、ほとんどの生徒が関心を持って取り組んでいる。	まとめの時間が不足したため、気忙しい。余裕を持って終了できると良い。

取組の成果

- 具体物の提示や、グループによる話し合いによって、生徒が考える場面が増えた。
- グループ学習を取り入れたことで、生徒は話し合い活動に意欲的に取り組み、考えを広めたり深めたりしている。

新たな課題

- 生徒による話し合いの中から、「気付きの場面」を引き出すための工夫。
- 効果的な話し合いをさせるためのリーダーへの事前指導。

D教諭は、この評価結果をさらなる改善に生かすべく、新たな課題への取組として、様々なグループ学習の手法について研究に取り組んでいます。

ポイント

高等学校の多くの教師は、自身が高校時代に受けた授業をモデルとして、講義を主体とした授業を行うことが多いのではないのでしょうか。しかし、時代の変化とともに生徒の求める学習スタイルは多様化しています。生徒や同僚教師による授業評価から得られた改善の視点を生かし、生徒の実態に合わせて授業に工夫改善を加え、分かりやすい授業や生徒が学び合う授業を提供することが大切です。

第4章 組織的に学力向上に取り組むための校内研修の取組

ー本資料を活用して実践事例に学ぶー

新しい取組を始める際に、既に一定の成果が認められている先行事例に学んだり、追試してみたりすることも大切です。本資料も、平成18年度における総合教育センターの調査研究で作成した冊子「授業評価の導入と活用に関する参考資料（小・中学校編）子どもと共につくるよりよい授業を目指してー授業評価の導入と授業研究会の新しい展開ー」（平成19年3月）（以下「小・中学校編」と称す）を参考に作成しました。

この章では、高等学校の実践に生かせることを小・中学校の実践から学ぶために、右の「小・中学校編」を検討した、本調査研究の第1回調査研究委員会の模様とともに、本資料「校内研修に関する参考資料（高等学校）」自体の活用例を紹介します。



1 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ

ー第1回調査研究委員会にてー

本調査研究の第1回調査研究委員会には、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部の田代直幸教育課程調査官を助言者として招聘しました。この委員会では、助言者の提案により、「冊子『子どもと共につくるよりよい授業を目指して』から学ぶ」と題して、ワークショップ型の研究協議を行いました。参加者が自校でできそうなことや参考になったことを「小・中学校編」から見出して、それを互いに紹介し合うというものです。他者の指摘から新たな気づきが生まれ、実践の可能性に広がり期待できます。

実際に、この作業を通して、4校の調査研究協力校の参加者からは、次のような気づきが挙げられました。

- 「児童の声を生かそうとする姿を教師が見せることで、児童の学習意欲が高まることに気付かされました。」(p. 13「児童による授業評価」)
- 「授業評価を疑問視していた教師が、実際に実施することで、子どもたちの声を聞くことができ、授業を見直そうとする意識が高まったこと。」(p. 14「児童による授業評価」)
- 「教師と生徒が授業中に何でも言い合える人間関係づくりのよい機会としたい」(p. 26「授業評価によって明らかになった改善の視点」)
- 「年間2回の授業評価を取り入れることによって、PDCAの大きな流れの中で、年間を通して授業改善を図っています。」(p. 30「学校評価に授業評価を位

置付けた取組」)

- 「授業は『教師と児童生徒とでつくっていくもの』という意識を教師が持つことが大切」(p. 33「学校評価に授業評価を位置付けた取組」)
- 「企業では『仕事を通じた職場での教育訓練』をO J T (on-the-job training)と呼んでいますが、この学校では、それをもう一步進めた『仕事を通じた学び』にまで高めています。」(p. 37「教員の学びを進めるO J T」)
- 「プロンプターの役割が重要」(p. 48「ワークショップ型授業研究会」)

このように、高等学校の先生方も、小・中学校の実践事例から学ぶことがあったわけです。

2 ワークショップ型研修で実践事例に学ぶ

ー新任学習指導主任研修会(小・中学校)にてー

総合教育センターにおける平成19年度の「新任学習指導主任研修(小・中学校)」において、「小・中学校編」を紹介する機会がありました。「小・中学校編」の資料は全60ページに及ぶため、40分という限られた時間の中で全ての内容を詳しく紹介することは不可能です。そこで、第1回調査研究委員会を参考に、ワークショップ型の手法を用いた学習会の時間としました。

受講者には、まず目次の見出し(下図参照)に注目して、関心を持った事例のページだけに目を通してもらい、それを参考にして自校で実践が可能なことについて考えてもらいました。さらに、それを4～5人のグループ内で紹介し合うことで、他者の気付きから互いに実践の可能性を学び合うということができました。このような形により、限られた時間の中で資料を活用するとともに、実践事例、先行事例から学ぶ機会を作ることができました。

「授業評価の導入と活用に関する参考資料(小・中学校編)子どもと共につくるよりよい授業を目指してー授業評価の導入と授業研究会の新しい展開ー」 (栃木県総合教育センター 平成19年3月)	
事例1 子どもと共につくるよりよい授業を目指して	児童生徒による授業評価
事例2 カリキュラムづくりに生かす授業評価	マネジメント・サイクル
事例3 生徒の視点で取り組んだ授業評価への挑戦	授業評価
事例4 授業評価によって明らかになった改善の視点	評価票の改善
事例5 学校評価に授業評価を位置付けた取組 「地域の信頼に応える学校づくり」	学校評価
事例6 教員の学びを進めるO J T (on-the-job training) 「対話リフレクションによる授業研究」	O J T
事例7 模擬授業を取り入れた授業研究会	模擬授業
事例8 授業評価とビデオを活用した授業研究会の工夫	ビデオ
事例9 ワークショップ型授業研究会	ワークショップ
1 ワークショップ型授業研究会	
2 授業リフレクションの手法を用いた授業研究会	

3 ワークショップ型研修を校内研修で ―本資料の活用例―

本資料「授業評価と授業研究会に関する参考資料（高等学校）―校内研修を通じた授業改善を目指して―」の活用にあたっては、紹介されている事例が担当の教科と異なる事例であっても、教科の枠を超えて指導に生かすという視点で御覧ください。本資料が小・中学校の実践事例を参考にして生まれたように、他教科の事例からも参考になることがあるでしょう。

先に挙げたワークショップ型研修を応用すれば、本資料を活用して、次のような校内研修を展開することも考えられます。

☆準備するもの

- ①模造紙1枚（「アクションプランシート」と名付ける）
縦軸に「すぐにできること」、「今年度中にできること」、「次年度にできること」、横軸に「個人レベルで実現可能」、「教科ぐるみで実現可能」、「学校をあげて実現可能」と仕切って、マトリックス型に書く。
- ②3色の付箋×10枚×参加者分
- ③サインペン×参加者分
- ④本資料またはその複製物（総合教育センターのホームページからダウンロード可能）×参加者分

展開1：本資料を読んで、そのまま実践してみたいことや、アレンジして自校化したいこと、独自に考えたことなどのアイディアを、色別の付箋に書きます。

（例：「個人レベル＝水色」、「教科ぐるみ＝ピンク」、「学校をあげて＝黄色」）

展開2：付箋を貼り出してグルーピングし、実行に移すことを参加者で考えます。

マトリックス型のアクションプランシート

「授業評価と授業研究会に関する参考資料（高等学校）―校内研修を通じた授業改善を目指して―」を読んで実行してみたいこと

	個人レベルで実行可能	教科ぐるみで実行可能	学校をあげて実行可能
すぐにできること	小さなメモ用紙を用いた授業評価	授業アンケートによる「〇〇科で身に付けたい力」の調査	模擬授業研究会でプロンプター養成研修（教科主任対象）
今年度中にできること	独自の重点課題に沿った授業評価と授業改善	授業アンケートを生かした年間指導計画の見直し	複数教科の担当が参加する研究授業＋授業研究会
	総合教育センターの教育研究発表大会に参加	授業アンケートを生かした指導法の改善プランの実行と蓄積	統一フォーマットの授業評価票の改善 シラバスの活用と改善
次年度にできること	教材を開発して、総合教育センターの教材キットに提供	3年間の学習指導計画の見直し	一人一回の研究授業＋授業研究会

第5章 授業評価の目的と目的別の授業評価シート

1 授業評価の目的

(1) 授業評価の目的

学校には育てたい生徒像に基づく教育目標があり、各学校ではそれを実現するために様々な教育活動を展開しています。教育活動の柱である学習指導においては、生徒の実態を考慮して、教科ごとに指導目標及びそれに基づく指導計画(Plan)を立て、授業(Do)を展開しています。本調査研究においては、それらの指導計画や授業の展開が適切であったかどうかを、授業評価(Check)や授業研究会を通して形成的に評価して、よりよい教育活動の改善(Action)に生かすという観点から実践研究に取り組みました。

授業評価の目的は、教員一人一人が自分の授業を振り返り、専門性を一層高めて、より質の高い授業や生徒の力を伸ばす授業をつくることにあります。また、授業評価を活用して生徒からの反応を引き出し、それに応えていくことで教師と生徒との双方向のコミュニケーションを図り、両者の信頼関係を築いて生徒の学ぶ意欲を育むことにあります。

言うまでもなく、授業評価は、数値化することや評価すること自体が目的ではありません。料理に腕を振るった人が、その料理を食べた人に料理の出来映えや味について聞いてみたくなるように、授業に工夫を凝らした教師が、生徒に授業の出来映えを聞いてみたくなるのは至極自然なことです。そのようにして良い評価を得た料理人は次の料理に、そして教師は次の授業に、ますます意欲的に取り組むようになります。授業評価と授業改善が、そのような相乗効果を生むことが理想です。

(2) 生徒による授業評価を実践した方の声

総合教育センターでの基本研修の際に、生徒による授業評価を実施した先生から、感想を聞きました。第1章で、授業評価に関するアンケートから指摘された、授業評価の実施上の課題や懸念について述べましたが、次に挙げる実践者の声からは、授業改善に対する前向きな姿勢が感じられます。

授業評価は授業改善に生かせる生徒の声を聞くチャンスである

- 生徒による授業評価を実施してみるまでは、生徒の評価能力に疑問を感じていました。しかし、実際に行ってみると、意外に素直な回答が多く、**授業改善に生かせる声を聞くことができました。**
- 自分が高校生だった頃は、授業評価というシステムはありませんでしたが、先生の授業が面白いとか、ためになるとかと判断(評価)したり、友人と話したりはしていました。そのときの見方や判断能力(評価能力)は、**その年代なりに、ある程度の確かさがあったように思います。**

授業評価は生徒との信頼関係づくりに役立つ

- 生徒による授業評価は、質問の内容によっては的外れな回答が出ることもあります。しかし、生徒の声を謙虚に受け止めれば改善に生かせるヒントを見つけることができます。
- 改善のヒントをもとに、実際に改善しようとすることを生徒に伝えて実践していくことで、教師と生徒との信頼関係が強まり、「教師批判の声」は少なくなると思います。そのことがより良い授業づくりにも結びついていくものだと思います。
- 授業は教師と生徒が双方向のコミュニケーションによってつくり上げるものであるという認識を共有することが大切だと思います。また、生徒の本音を引き出せるように、普段から生徒との信頼関係を築いていることも大切だと思います。

評価を授業改善に生かせば形式的な取組にはならない

- 生徒による授業評価を実施しても、やがては「形式的な取組」になるのではないかと危惧していました。しかし、実際にやってみると、**普段の授業を振り返る材料**が見出せました。
- 授業評価は、授業改善を通して生徒の学力を向上させることにつながるという前向きな意識で取り組めば、決して形式的にはならないと感じました。
- 教員自身が「授業評価」をやらされるという意識でいると「形式的な取組」になってしまうかも知れませんが、**授業改善に生かすという意識**を持って取り組めばよいことが分かりました。

授業評価の目的は点数化ではなく授業改善に生かすことである

- 学校全体で統一している質問項目に、自分で確認したいと思った独自の評価項目を加えて評価票を作りました。自分で作った評価項目については、やはり**結果や反応が気になります**。
- 自由記述の欄を設けて、生徒に生の声を書いてもらいました。授業に対する生徒の思いが書かれていて、**数値では表れないところにも授業改善のヒントが見出せました**。授業評価は、授業の品定めや点数化、数値化が目的ではなく、やはり授業改善に生かすことが大切だと実感しました。

工夫改善した点について評価すれば元気の出る授業評価になる

- マンネリ化した授業をしたときの出来栄は、人に聞くまでもありませんが、何かしら工夫を凝らした授業をしたときには、**自ずと生徒の反応が気になる**ものです。
- 授業を工夫した時にこそ授業評価を実施して、成果と課題を検証して、さらなる工夫改善に生かしたくなるような、**元気の出る授業評価**にすることも大切だと思います。

2 目的別の授業評価シート

授業評価には、「生徒による授業評価」、「教員相互による授業評価」、「保護者、地域住民、学校評議員による授業評価」等がありますが、ここでは主に「生徒による授業評価」の例を目的別に紹介すると共に、授業評価を実施する際のポイントを紹介します。

「生徒による授業評価」を実施する際には、まず、生徒に対して評価の目的や意義について具体的に説明します。そして、アンケート形式等によって実施します。実施後には、集計結果や改善に向けての方策について、生徒に説明します。

授業評価シートは、評価の目的に応じて、様々な様式が考えられます。例えば、選択肢方式の授業評価は、生徒にとって回答が容易であることや、教師にとって分析が比較的容易であるというメリットがある反面、生徒が感想や要望を自由に書くことができないというデメリットもあります。必要に応じて、自由記述だけにしたり、選択肢の問いと自由記述を組み合わせたりするとよいでしょう。また、記名式にすると、教師に対する一方的な批判が少なくなつて、責任ある回答が得やすくなり、無記名式にすると、本音が聞き出しやすくなるので、場合によって使い分けると良いでしょう。

以下に目的別の授業評価シートの例を示します。授業改善のねらいに合わせて、質問内容を変えるなど、必要に応じて加工して御活用ください。

(1) 日頃の指導について概括的に把握する場合

* 次のような授業評価は、いわば健康診断のようなものです。指導法の様々な点について網羅的に問うことで、日頃見落としがちな点などが明らかになることが期待できます。

科目名()	月	日	曜日	年	組	番	氏名
私の授業について、あてはまるところに○をつけてください。よりよい授業にするために生かしたいと思います。							
4	4	3	2	1			
1	2	1	4	3	2	1	
2	1	4	3	2	1	4	3
3	4	3	2	1	4	3	2
4	4	3	2	1	4	3	2
5	4	3	2	1	4	3	2
6	4	3	2	1	4	3	2
7	4	3	2	1	4	3	2
8	4	3	2	1	4	3	2
9	4	3	2	1	4	3	2
10	4	3	2	1	4	3	2
11	4	3	2	1	4	3	2
12	4	3	2	1	4	3	2
13	4	3	2	1	4	3	2
14	4	3	2	1	4	3	2
15	4	3	2	1	4	3	2
16	4	3	2	1	4	3	2
17	4	3	2	1	4	3	2
18	4	3	2	1	4	3	2

(2) 本時の指導について概括的に把握する場合

＊生徒一人一人の声を自由記述で読み取るための評価票です。集計に時間的な労力を要しないことから、手軽に実施することができるだけでなく、改善策を素早く打ち出すことが可能になります。事例 2（19ページ）で紹介した取組は、次のような用紙の変わりに、2色の付箋を用いたものです。

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名
今日の授業について、皆さんが思うことを書いてください。よりよい授業にするために生かしたいと思います。
1 先生の授業のよいところ
2 先生に改善して欲しいところ

＊大学によっては、「ミニツツペーパー」や「リアクションペーパー」などと称する授業評価を授業改善に取り入れています。生徒の疑問や質問に対して、次の授業の際に回答したり改めて指導したりするというようにリアクション（反応・応答）することで、授業に対する生徒の参加意識や期待感を高めることが可能になります。

「ミニツツペーパー」の質問例

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名
1 今日の授業で、あなたが重要だと思った内容について簡潔にまとめてください。
2 今日の授業の内容で、疑問に残った点や、分かりにくかった点があれば記してください。

「リアクションペーパー」の質問例

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名
1 授業内容に対する感想
2 個別の質問

(3) 単元や本時の指導について概括的に把握する場合

* 単元や授業ごとに、「分かったこと・できるようになったこと」「疑問・質問」「授業に対する要望」などについて質問し、指導の改善に生かすものです。何時間分かの記入欄を1枚の用紙に収めることで、学習のカルテとして利用することができ、生徒の学習の変容や蓄積を見取ることができます。必要に応じて、質問に対する回答を空欄に記入して返却したり、次の時間にクラス全体に説明したりします。集計に時間的な労力を要しないことから、手軽に実施することができるだけでなく、改善策を素早く打ち出すことが可能になります。

* 大学によっては、「シャトルカード」と称しています。

科目名() 年 組 番 氏名	
「分かったこと・できるようになったこと」「疑問・質問」「授業に対する要望」などの、学習内容に関するコメントを書いてください。	
月日	コ メ ン ト
／	
／	
／	

(4) 説明や質問等の仕方について把握する場合

* 授業改善の視点が、例えば「説明や質問の仕方」に絞られているような場合は、次のようにそれらの課題に沿った質問項目を設定します。

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名				
私の授業について、あてはまるところに○をつけてください。よりよい授業にするために生かしたいと思います。				
4 そう思う	3 だいたいそう思う	2 あまりそう思わない	1 そう思わない	
1 先生の話し方は、言葉がはっきりしていてよく分かる。				4 3 2 1
2 話す声の大きさと速さがちょうどよい。				4 3 2 1
3 質問で聞かれていることが分かりやすい。				4 3 2 1
4 何をどうすればよいか指示されたことが分かりやすい。				4 3 2 1
5 先生は私たちの質問にていねいに答えてくれる。				4 3 2 1
6 先生の問いかけや指示は、じっくり考えたり、新しいことに気付いたりするヒントになることが多い。				4 3 2 1
7 先生へのコメントがあれば、記入してください。				

(5) 教材の準備や提示の仕方について把握する場合

*授業改善の視点が、例えば「教育機器や教材の活用に関すること」に絞られているような場合は、次のようにそれらの課題に沿った質問項目を設定します。

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名				
私の授業について、あてはまるところに○をつけてください。よりよい授業にするために生かしたいと思います。				
4 そう思う 3 だいたいそう思う 2 あまりそう思わない 1 そう思わない				
1 先生は、パソコンなどの機器を活用して授業を進めている。	4	3	2	1
2 学習プリントは、要点が分かりやすく使いやすい。	4	3	2	1
3 先生が提示してくれる資料や教材は学習内容を理解するのに役立つ。	4	3	2	1

(6) 指導の工夫について把握する場合

*授業改善の視点が、例えば「指導の工夫に関すること」に絞られているような場合は、次のようにそれらの課題に沿った質問項目を設定します。

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名				
私の授業について、あてはまるところに○をつけてください。よりよい授業にするために生かしたいと思います。				
4 そう思う 3 だいたいそう思う 2 あまりそう思わない 1 そう思わない				
1 知的好奇心を喚起して興味がわくように工夫している。	4	3	2	1
2 一斉、グループ、ペア、個別など、多様な学習形態を工夫している。	4	3	2	1
3 毎時間の学習の目標や到達度が明確になっている。	4	3	2	1
4 教科書や板書では伝えにくい内容を、パソコン等による映像を用いるなどして、分かりやすく提示するようにしている。	4	3	2	1
5 多様な解答例や模範的なノート等を、クラスで回覧したり、提示したりしている。	4	3	2	1
6 調べたり考えたりしたことを互いに伝え合うことで、新たな気づきがあったり、思考を深めたりする活動が多い。	4	3	2	1
授業に関する感想や意見 (よい点や改善して欲しい点などを書いてください。)				

(7) 指導スキル等について診断的に把握する場合

* 次のような、生徒による授業評価に合わせて、同じ評価項目で教師自身も自己評価した上で、双方を照らし合わせて課題を明らかにするというような利用法が考えられます。

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名				
☆このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに答えてもらうものです。私の授業について、あてはまるところに○をつけてください。				
1 先生の話し方はどうですか。				
① 言葉がはっきりしていてよく分かる。	4	3	2	1
② 声の大きさは適切である。	4	3	2	1
③ 話す速さは適切である。	4	3	2	1
④ その他()				
2 先生の板書の仕方はどうですか。				
① 文字の大きさは適切である。	4	3	2	1
② 色の使い分けや矢印が分かりやすい。	4	3	2	1
③ 板書に自分たちの意見が生かされている。	4	3	2	1
④ 分かりやすく整理されている。	4	3	2	1
⑤ その他()				
3 問題(質問)の出し方はどうですか。				
① 質問で聞かれていることがよく分かる。	4	3	2	1
② 分かりやすい言葉で質問してくれる。	4	3	2	1
③ 質問後、考える時間を十分とってくれる。	4	3	2	1
④ その他()				
4 説明や指示の仕方はどうですか。				
① 分かりやすい。	4	3	2	1
② ていねいである。	4	3	2	1
③ 具体的に説明してくれる。	4	3	2	1
④ その他()				
5 質問のしやすさ、質問に対する対応はどうですか。				
① 質問や発言をしやすい雰囲気である。	4	3	2	1
② ていねいに応えてくれる。	4	3	2	1
③ その他()				
6 先生の対応はどうですか。				
① 私たちの意見や考えを大切に扱ってくれる。	4	3	2	1
② 失敗や間違いをしても温かく見守ってくれる。	4	3	2	1
③ 自分の考えを引き出そうとしてくれる。	4	3	2	1
④ 答えや考えの良さをほめたり励ましたりしてくれる。	4	3	2	1
⑤ その他()				

(8) 一人一人を大切にしている授業を目指した指導について把握する場合

*授業改善の視点は、教科・科目の内容や指導技術だけとは限りません。次のように、教師と生徒の人間関係の形成に関わることや、コーチングスキルに関わることも大切な視点です。

科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名					
先生の授業について、あてはまるところに○をつけてください。よりよい授業にするために生かしたいと思います。					
4	4	3	2	1	
1	先生は、親しみを込めて話しかけてくれる。	4	3	2	1
2	先生は、私たちの意見や考えを大切に扱ってくれる。	4	3	2	1
3	先生は、失敗や間違いをしても温かく見守ってくれる。	4	3	2	1
4	先生は、私たちの考えを引き出そうとしてくれる。	4	3	2	1
5	授業の中で、ほめたり励ましたりしてくれる。	4	3	2	1
6	先生の授業では、やる気が出てくる。	4	3	2	1

(9) 学期末に指導を総括的に把握し、次の学期の改善に生かす場合

*授業評価の集計に時間的な労力を割きたくない場合、長期休業中に集計作業を行えば、次の学期での改善策を総括的に把握するとともに、じっくりと検討することができます。

科目名() 月 日 曜日					
☆このアンケートは、授業をよりよいものにするために、みなさんの意見や感想を聞くものです。成績とは関係ありませんので、率直に答えてください。					
4	4	3	2	1	
1	学力の身に付く授業が多かった。	4	3	2	1
2	説明はていねいで分かりやすかった。	4	3	2	1
3	教材やプリントなどは、学習内容を理解するのに役立った。	4	3	2	1
4	たくさんの人が発言できるように工夫されていた。	4	3	2	1
5	自分の意見や考えを発言しやすい雰囲気だった。	4	3	2	1
6	先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	4	3	2	1
7	板書は見やすかった。	4	3	2	1
8	板書は、学習内容を理解するのに役立った。	4	3	2	1
9	考えたり活動したりする時間がきちんとあった。	4	3	2	1
10	私たちの考えや意見をよく聞いてくれた。	4	3	2	1
11	分からないところや難しいところをきちんと説明してくれた。	4	3	2	1
12	生徒の理解度を確認しながら教えてくれた。	4	3	2	1
13	先生は勉強の始まる時間や終わる時間を守っていた。	4	3	2	1
14	熱意をもって教えてくれた。	4	3	2	1
15	宿題の量や予習・復習の要求基準はちょうどよかった。	4	3	2	1
16	授業がおもしろかった。	4	3	2	1
17	授業内容が分かった。	4	3	2	1
18	授業中進んで発表することができた。	4	3	2	1
19	私は、学習に主体的に取り組んだ。	4	3	2	1
20	私は、先生の授業に満足している。	4	3	2	1
授業に関する感想や要望などがあったら書いてください。					

(10) 生徒の自己評価に始まり、学校・教科としての共通質問や授業者個人の質問を交えて、課題を把握する場合

*生徒に授業に対する取組を自己評価させてから、教師の授業を評価させることで、批判的でなく建設的な評価を導くことが期待できます。

*学校全体の取組として各教科共通の質問項目で評価票を作成している場合、評価の実施や集計の労力が軽減されるというメリットがありますが、教科や授業者個人として生徒に聞きたいことが質問項目にないというデメリットもあります。次の評価票のように、基本的に統一様式にしながら、教科や個人としての質問の欄を設けるようにすれば、より改善に生かすことが期待できます。

授業をよりよいものにするために、皆さんの意見を参考にしたいと思いますので、建設的な観点から、責任をもって回答してください。				
科目名() 月 日 曜日 年 組 番 氏名				
あなた自身の自己評価 (授業を受けた科目について)	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
① ノートをきちんと取っていますか。	4	3	2	1
② 先生の話をよく聞いていますか。	4	3	2	1
③ 分からないところを解決するようにしていますか。	4	3	2	1
④ シラバスを活用していますか。	4	3	2	1
⑤ 予習や復習を欠かさずしていますか。	4	3	2	1
⑥ この科目の授業(1時間)に対して、家庭学習にどれくらい取り組みましたか。	60分以上	40～50分	20～30分	10分以下
授業に関する質問 (今日の授業または普段の授業について)	あてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
① 板書は分かりやすいですか。	①～⑥は、各教科共通の質問項目			
② 授業の工夫がなされていますか。	4	3	2	1
③ 説明や質問の仕方は、分かりやすいですか。	4	3	2	1
④ 生徒に合った教え方やアドバイスをしていますか。	4	3	2	1
⑤ 分からないところが分かるようになる授業ですか。	⑦～⑪は、国語科の共通質問項目例 ↓ 教科毎の内容に合わせて質問項目を置き換える			
⑥ 考える時間や場面が十分にありますか。				
⑦ もっと国語を学びたいと思えるような授業ですか。				
⑧ 「話す能力・聞く能力」が身に付いたと思いますか。	4	3	2	1
⑨ 「書く能力」が身に付いたと思いますか。	4	3	2	1
⑩ 「読む能力」が身に付いたと思いますか。	4	3	2	1
⑪ 「語彙力」が身に付いたと思いますか。				
⑫ 知的好奇心を喚起する授業ですか。	⑫は、授業者個人の重点目標について確認するための質問項目			
授業に関する感想や意見 (よい点や改善して欲しい点などを書いてください。)				

(11) 単元のシラバスに自己評価の欄を設けて授業評価として活用する場合

＊指導内容の理解度や定着度を、生徒に自己評価及び自由記述で振り返らせるとともに、それを授業評価の一つとして授業改善に役立てます。毎時の指導の成果がある程度把握できるだけでなく、授業に対する要望については、次の時間から改善に生かすこともできます。書かれていた質問に対して次の時間に回答したり、学習上の不安に対して励ましの言葉を書いて返したりするというような活用もできます。

第 4 時	第 3 時	第 2 時	第 1 時
月 日	月 日	月 日	月 日
1 グループ内での相互評価を基に、より説得力のある文章になるように推敲する。	1 本文に書かれていることを根拠にして、説得力のある意見文を書く。	1 論拠を明確にして自分の考えを書く。	1 議論や説得のための文章を解釈する。 2 内容について、論理的な関係性を分析・解釈する。
② ①の相互評価を基に、自分の意見文を、より説得力のある文章になるように推敲する。	① 4人のグループ内で話し読みして、各人の意見文の良い点を10か所、改善点を10か所指摘し合う。 ② ①の相互評価を基に、自分の意見文を、より説得力のある文章になるように推敲する。	① 一方の文章に賛成する立場から、あるいは両方の手紙の内容にふれながら、自分の言葉を使って、自分の考えを書く。	① 二つの文章のそれぞれに通する目的を考える。 ② 二つの文章の具体例が引き合いにされた理由を考える。
4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

○単元のシラバスに示された学習の目標や学習内容を読んで、見通しをもって学習しよう。

○毎時間の授業の最後に、学習を振り返ってみよう。

(自己評価 4 よくできた 3 だいたいできた 2 あまりできなかった 1 できなかった)

学習の目標：二つの文章を比較して、内容を分析・解釈し、説得力のある意見文を書く。

単元名「小論文を書く」(全4時間)

目 標

学 習 内 容

自己評価

授業後の感想や質問

(12) 教師自身または教師同士によるチェックリスト

＊教師が自らの授業を自己評価したり、授業研究などの際に授業者の指導法について診断的に評価したりする際のチェックリストです。生徒による授業評価ではありませんが、質問項目を生徒用に転用することもできます。

	チェック項目
	【指導計画・学習指導案作成時】
☐	1 本時や本単元の指導目標に、生徒に身に付けさせたい能力が明確に示されているか。
☐	2 生徒が自ら学ぶ場面が設定されているか。
☐	3 指導の過程における、生徒の活動に対する評価や助言が計画されているか。（評価の観点、評価規準、評価方法等が示されているか。）
☐	4 自己評価や相互評価の方法や場面が設定されているか。
	【学習展開・学習活動中の対応】
☐	5 生徒が落ち着いて学習に取り組める、学習のルールは身に付いているか。
☐	6 自力解決や、課題に取り組む時間が確保されているか。
☐	7 机間指導をしながら、生徒の課題解決の過程や予想される反応などを把握しているか。
☐	8 生徒の反応を確認しながら、結果だけでなく、学習の過程に対しての励ましや賞賛の言葉かけをしているか。
☐	9 生徒の反応を確認しながら、つまづきや誤りに対して、改善点や解決方法等のアドバイスをしているか。
☐	10 自分の解決の結果を評価できるような視点を与えているか。
☐	11 自分の考えや作品を進んで発表する場面を作っているか。
☐	12 級友の考え方や作品と触れ合う機会を作っているか。
☐	13 生徒同士で相互評価する場面を設定しているか。
☐	14 進んで発表できた生徒への賞賛の言葉かけをしているか。
☐	15 生徒の反応に対する価値付けを行っているか。
☐	16 生徒が自己評価する場面を設定しているか。
	【学習後の対応】
☐	17 自己評価の場面を診断し、適切でない場合は個別に指導しているか。
☐	18 解決の結果や作品を、学習の目標の達成という観点で評価しているか。
☐	19 評価したことを、コメントや言葉かけなどで生徒に伝えているか。
☐	20 結果だけでなく、解決の過程や発想の良さを認めて、そのことを伝える工夫をしているか。
☐	21 進歩したことが分かるようなテストの採点の仕方を工夫しているか。
☐	22 生徒の作品に対して、進歩したことが伝わるようなコメントを付けているか。
☐	23 課題が解決できなかった生徒や、作品ができなかった生徒に対して、補習や家庭学習など、対応の仕方を工夫しているか。
☐	24 学習した結果や作品を評価し、素早く生徒に返しているか。

引用文献・参考文献・参考URL

1 引用文献

- ・ 栃木県総合教育センター（平成19年3月）『授業評価の導入と活用に関する参考資料（小・中学校編）子どもと共につくるよりよい授業を目指して－授業評価の導入と授業研究会の新しい展開－』

2 参考文献

- ・ 赤堀侃司（代表）著（2007年8月）『授業を効果的にする50の方法－FD研修の時代に向けて』株式会社アルク
- ・ 教職研修四月号増刊「今すぐ取り組む『対策シリーズ』第2巻『新採教員』の育て方・伸ばし方」（平成19年4月）教育開発研究所
- ・ 沢本和子、宗我部義則、千葉県柏市中原小学校/著（2005年6月）『夢中・熱中・集中…そして感動 中原小学校の挑戦！－授業リフレクションで校内研を変える』東洋館出版社
- ・ 仙台市教育センター（平成17年3月）『指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方』
- ・ 塚本榮一著（2006年3月）『授業改善を改善せよ－学習者レスポンス分析の理論と展望－』株式会社ジャストシステム
- ・ 栃木県総合教育センター（平成19年3月）『授業評価の導入と活用に関する参考資料（小・中学校編）子どもと共につくるよりよい授業を目指して－授業評価の導入と授業研究会の新しい展開－』
- ・ 村川雅弘編著（2005年7月）『授業にいかす教師がいきるワークショップ型研修のすすめ』ぎょうせい
- ・ 村川雅弘・編（2006年7月）『みんなのアイデアがつながるワークショップ型研修の手引き～研修デザイナーでまとめる全員参加型研修～』株式会社ジャストシステム

3 参考URL

- ・ 『授業力向上の鍵2』 横浜市教育センター
<http://www.edu.city.yokohama.jp/tr/ky/k-center/jugyouryokukoujounokagi.pdf>
- ・ 豊かな授業を目指して－山形大学による授業改善の取り組み－
<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/kaizen/ksite/index.html>
- ・ 成長するティップス先生 Ver1.2 ー名古屋大学版ティーチングティップスー
<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/index.html>
- ・ 授業改善のためのティーチングチップス集 岡山大学教育開発センターFD委員会（2007年度版）
<http://cfd.cc.okayama-u.ac.jp/fd/tc/2005/>
- ・ 大分大学高等教育開発センター
<http://www.he.oita-u.ac.jp/fd/ev.html>
- ・ 法政大学社会学部公式ウェブサイトSOC
<http://soc.hosei.ac.jp/curriculum/kogi/hikaku.html>

授業評価と授業研究会に関する参考資料（高等学校）
－校内研修を通じた授業改善を目指して－

発 行 平成20年3月
栃木県総合教育センター 研究調査部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>